

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
心理学		理学療法科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	龍谿 乗峰（実務経験有）
授 業 の 概 要				
心理学とはなにか。学問的に解説した後、学生に身近な心理的要素を例に出し、共にどんな心理が働いているか見ていく。そして、自分について心理的分析してみて、自身の心理的特徴を理解し、恋愛場面や対人関係における心理を考えてみる。この講義の最後には心理の発達について講義しまとめへとつなげていく。				
[実務経験] 大学勤務				
授業終了時の到達目標				
特定の心理分野、アプローチにこだわらず、広く心理学の世界を紹介する。最終的には、クライアント（患者さん）の気持ちをくみ取れる態度を養成したい。				
回	テ ー マ	内 容		
1	心理学とは？	講義		
2	知覚の心理	講義、パワーポイント		
3	社会心理学（1）	講義		
4	社会心理学（2）	講義		
5	認知心理学（1）	講義		
6	認知心理学（2）	講義		
7	行動主義とは？	講義、ビデオ		
8	性格の心理学（1）	講義		
9	性格の心理学（2）	講義、実習		
10	臨床心理学（1）	講義		
11	臨床心理学（2）	講義、ビデオ		
12	カウンセリング心理学（1）（2）	講義		
13	カウンセリング心理学（3）（4）	実習（学内）		
14	カウンセリング心理学（5）	講義		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
必要に応じて紹介します。		期末試験	100.0%	期末試験にて評価します

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
倫理学		理学療法科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	山内 誠（実務経験有）
授業の概要				
先哲の基本的な考え方を手掛かりとして倫理学の基本を学習し、哲学や宗教のもつ意義を考える。現代の倫理的課題について考察し、人間としての在り方生き方について考える。 〔実務経験〕 大学勤務				
授業終了時の到達目標				
「生命倫理（バイオエシックス）」における基礎的な考え方と具体的な諸論点を考察することを通じて、医療や福祉の現場と切り結ぶことの出来る倫理的思考のあり方を考える。				
回	テーマ	内 容		
1	現代の倫理学	講義		
2	生命倫理とは何か	講義		
3	健康／病気	講義		
4	いのちの価値は自明か	講義		
5	医療におけるコミュニケーション	講義		
6	生殖医療の問題	講義		
7	妊娠中絶の問題	講義		
8	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『生命倫理百科事典』丸善. 今井道夫・香川知晶 編『バイオエシックス入門』東信堂. キャロル・ギリガン『もうひとつの声』川島書店. など		期末試験	100.0%	期末試験にて評価します。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
物理学		理学療法科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	松本 昇（実務経験あり）
授業の概要				
ヒトの構造・運動学を科学的に分析するために必要な思考力の基盤となる物理学の知識を学ぶ。				
〔実務経験〕 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
症状や現象を力学的視点から分析することができる。また、能力の基となる知識を修得する。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	講義		
2	力とは	講義		
3	物体にはたらく力	講義		
4	剛体に働く力のつりあい	講義		
5	力のモーメント、トルクとは	講義		
6	力学的エネルギー保存の法則	講義		
7	運動量保存の法則	講義		
8	試験・解説	講義		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教員作成資料		期末試験	100%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生物学		理学療法科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	古谷 活や（実務経験有）
授業の概要				
生物学から生命現象を理解することは、生物界の一員である人間を理解する上で大変重要である。本講義では生物の最小単位である細胞から講義を進め、生体内の化学反応、分子遺伝学について講義した後、生物の各器官系について順に講義していく。 〔実務経験〕 高校教諭				
授業終了時の到達目標				
近年生物学の進歩は著しく、あらゆる面で科学的解明が進められており、21世紀は生物学の世紀であるとも言われている。生物学から生命現象を理解することは、生物界の一員である人間を理解する上でも大変重要である				
回	テーマ	内 容		
1	細胞（細胞内小器官）	講義、スライド		
2	組織・体細胞分裂	講義、スライド		
3	酵素とATP・光合成（同化）	講義、スライド		
4	窒素同化（タンパク質合成）・呼吸（異化）	講義、スライド		
5	動物の生殖・発生	講義、スライド		
6	受精・減数分裂	講義、スライド		
7	メンデルの法則・性と遺伝	講義、スライド		
8	遺伝形式	講義、スライド		
9	遺伝子の本体は	講義、スライド		
10	DNA等の遺伝物質（染色体との関	講義、スライド		
11	地球温暖化と生態系との関係（生態学からのアプローチ）	講義、スライド		
12	地球温暖化と生態系との関係（生態学からのアプローチ）	講義、スライド		
13	進化について	講義、スライド		
14	進化について	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
赤坂甲治 編著『生物学と人間』裳華房. 河合雅雄 著『人間の由来（上・下）』小学館. 岩本伸一 著『実験観察 生物図鑑』		期末試験	100.0%	筆記試験として100%評価

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
統計学		理学療法科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	杉本 和彦（実務経験有）
授業の概要				
リハビリテーションの有用性を判断する上で、統計学の知識は必要不可欠である。統計学の始まりから現在までを概括し、統計で用いられる独特の用語や定義に基づく基本的分析方法を学ぶ。 〔実務経験〕 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
統計学の網羅的な体系、統計学の基礎的な考え方、標本と母集団との関係、およびデータの種類と表現形式について学ぶ。また、よく用いられる統計的な検定方法を学修し、その実際の適用の仕方について学ぶ。				
回	テーマ	内 容		
1	統計学の基礎	講義と演習		
2	偏差、偏差平方和 分散 標準偏差	講義と演習		
3	記述統計と推測統計	講義と演習		
4	尺度 計数値 計量値	講義と演習		
5	ヒストグラムと正規分布	講義と演習		
6	対応のないt検定	講義と演習		
7	対応のあるt検定	講義と演習		
8	危険率 有意水準	講義と演習		
9	χ^2 乗検定	講義と演習		
10	相関分析	講義と演習		
11	回帰分析	講義と演習		
12	マンホイットニー検定	講義と演習		
13	ウィルコクソン検定	講義と演習		
14	総まとめ	講義と演習		
15	試験・解説	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教員作成資料		期末試験	100%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
健康管理学		理学療法科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	西潟 央（実務経験有）
授 業 の 概 要				
健康管理について栄養学なども含め学んでいきます				
〔実務経験〕 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
栄養とは食物をとおして、人の健康状態を高めるものである。本講義では、健康的な食生活を送るために、正しい栄養学の知識を身につけるとともに、私たちの食生活の現状と健康づくりについて学ぶ。また、分子の動態から栄養学を解説する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	栄養学概論（栄養学とは）	講義、スライド		
2	栄養学総論（食生活の現状と健康）	講義、スライド		
3	栄養素の機能（炭水化物）	講義、スライド		
4	栄養素の機能（脂質）	講義、スライド		
5	栄養素の機能（たんぱく質）	講義、スライド		
6	栄養素の機能（無機質）	講義、スライド		
7	栄養素の機能（ビタミン）	講義、スライド		
8	栄養生理（食物の摂取）	講義、スライド		
9	栄養生理（消化・吸収および排泄）	講義、スライド		
10	栄養生理（エネルギー代謝）	講義、スライド		
11	ライフステージと栄養（妊娠期・授乳期の栄養・成長期の栄養）	講義、スライド		
12	ライフステージと栄養（成人期の栄養・高齢期の栄養）	講義、スライド		
13	病態と栄養（食事療法・栄養素の過不足と病気、その他の病気と栄養）	講義、スライド		
14	栄養学と生化学の接点	講義		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
社団法人 全国調理師養成施設協会『栄養学』 科学技術庁資源調査会 編『五訂最新食品成分表』一橋出版. 社団法人 全国調理職業訓練協会『介護食士講座テキスト』 細谷憲政 著『人間栄養学』調理栄養教育公社. 荒川信彦・田島真 編著『食品学』調理栄養教育公社.		期末試験	100.0%	筆記試験

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
障害福祉論		理学療法科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	福田 育弘（実務経験有）
授業の概要				
障害者福祉に関する理念・価値・法制度及び障害構造等を体系的に理解するとともに障害をもつ人たちの生活・教育・雇用・施設環境等の実態を通して彼らを排除する社会構造への関心と支援のあり方を模索する。また、障害をもつ人たちがおかれている現状を把握し、「医学モデル」という狭義の捉え方ではなく、「生活・社会モデル」の視点からこの問題を考える。 〔実務経験〕施設勤務				
授業終了時の到達目標				
本講義では、障害者福祉全般についての理解を深めることを旨とし、ノーマライゼーションをはじめとする障害者福祉の理念、歴史、また制度など幅広い知識の習得に努める。また、現代社会が抱える様々な障害者福祉のニーズについて事例を通じて学習する。				
回	テーマ	内 容		
1	障害の概念	講義		
2	障害者福祉の基本理念	講義		
3	ノーマライゼーションとリハビリ	講義		
4	障害者の実態（身体障害者）	講義		
5	障害者の実態（知的障害者）	講義		
6	障害者の実態（精神障害者）	講義		
7	障害者福祉の施策Ⅰ	講義		
8	障害者福祉の施策Ⅱ	講義		
9	障害者福祉の関連施策	講義		
10	事例研究Ⅰ	GW演習		
11	事例研究Ⅱ	GW演習		
12	事例研究Ⅲ	GW演習		
13	事例研究Ⅳ	GW演習		
14	まとめ	講義		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
亀山幸吉・佐藤久夫 編『障害者福祉論』メヂカルフレンド社。 糸賀一雄『福祉の思想』NHK出版。 福祉士養成講座編集委員会 編『障害者福祉論』中央法規。 一番ヶ瀬康子・河鼻修 編『シリーズ福祉のこころ2・障害ってなんだろう』旬報社。		期末試験	100.0%	筆記試験として100%評価

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間関係とコミュニケーション		理学療法科／1年	2023／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	栗田 民恵（実務経験有）
授 業 の 概 要				
よりよい人間関係を築き、営むことは日常生活や専門職としての活動においてなくてはならないものである。本講義では人間関係について社会心理学や臨床心理学の視点から、講義だけでなく個人ワーク・グループワークを通して基礎的素養・応用知識を身につける機会にします。 〔実務経験〕施設勤務				
授業終了時の到達目標				
学んだことを今後の日常生活や専門職としての活動の中で活かせるよう習得することを目指します。				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション・人間のころとは	講義		
2	自分自身について考えてみよう	講義		
3	コミュニケーションとは？①	講義		
4	コミュニケーションとは？②	講義		
5	なぜ人は他者に好感を持つのか？	講義・演習		
6	自分の表現の仕方	講義・演習		
7	集団の影響	講義・演習		
8	ストレスの仕組みを考える	講義・演習		
9	自分の気持ちの伝え方①	講義・演習		
10	自分の気持ちの伝え方②	講義・演習		
11	相手の話しの聴き方①	講義・演習		
12	相手の話しの聴き方②	講義・演習		
13	傾聴技法のロールプレイ	講義・演習		
14	問題解決のロールプレイ	講義・演習		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
コミュニケーション論		理学療法科／1年	2023／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	浦辻 秀子（実務経験有）
授 業 の 概 要				
点字や手話を通し、聴覚障害、視覚障害の方との交流を深め、かつ、障害を理解し、リハビリテーションに活かすことができる				
〔実務経験〕施設勤務				
授業終了時の到達目標				
「聴覚障害」を理解し、聴覚障害者への配慮や工夫ができる能力を養う。 点字学習を通じて視覚障害の患者さんとの意思の疎通を図り、そして障害の理解を促進する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	あいさつ・伝えあう・名前（第1・2・3講座）手話の基礎知識	講義、演習（聴覚障害者をサポーターとして）		
2	家族・趣味・数字（第4・5・6講座）手話の基礎知識	講義、演習（聴覚障害者をサポーターとして）		
3	仕事・地図（第7・8講座）聴覚障害の基礎知識	講義、演習（聴覚障害者をサポーターとして）		
4	1日・1ヶ月・1年の経過（第10・11・12講座）	講義、演習（聴覚障害者をサポーターとして）		
5	日常生活（第15・17講座）医療用語、聴覚障害者の生活	講義、演習（聴覚障害者をサポーターとして）		
6	医療用語・医療場面模擬通訳演習、福祉制度	講義、演習（聴覚障害者をサポーターとして）		
7	医療場面模擬通訳演習、医療現場における手話通訳	講義（実技演習をもとに）実技（聴覚障害者をサポーターとして）		
8	点字・講義：視覚障害理解、見えないとは？、50音表の見方	点字板使用方法、アイマスク体験①		
9	点字基本2：障害理解、読み書き移動手段、50音、数字	点字紙に50音練習、アイマスク体験②		
10	点字基本3：障害理解、読み書き手引き、数字とアルファベット	名前・住所を書く。アイマスク体験③		
11	点字基本4：障害理解、案内、日常生活活動、数字とアルファベット	単語練習、アイマスク体験④		
12	点字分かち書き①：視覚障害理解、手引き、案内、日常介助	疾患名を書く、アイマスク体験⑤		
13	点字分かち書き②：「視覚障害理解、手引き、案内、日常介助	医療関連単語、アイマスク体験⑥		
14	視覚障害者への援助方法	演習		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
必要に応じて提示する		期末試験	100.0%	サポーターの聴覚障害者に対する姿勢及びコミュニケーション能力。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学Ⅰ		理学療法科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	杉本 はるか（実務経験有）
授業の概要				
骨のスケッチを通して骨の構造を知ってもらい、骨標本の一部を示されても骨部位名がわかるよう繰り返し試問していく。 筋のつき方、形状を立体的にイメージし、それぞれの作用を理解していく。 実技では実際に体表面から触察し、骨と筋を触りそれらの感触の違いを感じてもらう。 〔実務経験〕 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
骨・関節・靭帯・筋の模型標本を用いて観察を行い、スケッチを中心に学習事項をまとめる。後半では神経系との関連についても学び、筋に関しては運動学との知識ともつなげていく。また解剖実習のDVDも使用する。				
回	テーマ	内 容		
1	解剖学総論	講義；解剖学とは何か ；解剖学用語について		
2	骨学総論	講義		
3	骨学各論①鎖 骨	演習；鎖骨骨模写 講義；鎖骨の特徴について		
4	骨学各論②肩甲骨	演習；肩甲骨骨模写 講義；肩甲骨の特徴について		
5	骨学各論③上腕骨	演習；上腕骨骨模写 講義；上腕骨の特徴について		
6	骨学各論④橈 骨	演習；橈骨骨模写 講義；橈骨の特徴について		
7	骨学各論⑤尺 骨	演習；尺骨骨模写 講義；尺骨の特徴について		
8	骨学各論⑥手 部	演習；手部骨模写 講義；手部を構成する骨の特徴について		
9	骨学各論⑦寛 骨	演習；寛骨骨模写 講義；寛骨の特徴について		
10	骨学各論⑧大腿骨	演習；大腿骨骨模写 講義；大腿骨の特徴について		
11	骨学各論⑨脛 骨	演習；脛骨骨模写 講義；脛骨の特徴について		
12	骨学各論⑩腓骨／膝蓋骨	演習；腓骨／膝蓋骨骨模写 講義；腓骨／膝蓋骨の特徴について		
13	骨学各論⑪足部	演習；足部骨模写 講義；足部を構成する骨の特徴について		
14	骨学各論⑫脊柱（頸椎・胸椎）	演習；頸椎・胸椎骨模写 講義；頸椎・胸椎の特徴について		
15	骨学各論⑬脊柱（腰椎・仙椎・尾椎）	演習；腰椎・仙椎・尾椎骨模写 講義；腰椎・仙椎・尾椎の特徴について		
16	骨触診	実技		
17	確認テスト1（骨学）	試験		
18	上肢筋の運動を支配する神経	講義；上肢筋を支配する神経の構成と支配神経		
19	下肢筋の運動を支配する神経	講義；下肢筋を支配する神経の構成と支配神経		
20	筋学総論	講義		
21	肩甲帯の運動に関与する筋	講義；肩甲帯の運動に関与する筋の起始・停止・神経支配とその特徴について		
22	肩関節の運動に関与する筋	講義；肩関節の運動に関与する筋の起始・停止・神経支配とその特徴について		
23	肘関節・前腕の運動に関与する筋	講義；肘関節・前腕の運動に関与する筋の起始・停止・神経支配とその特徴について		
24	手関節の運動に関与する筋	講義；手関節の運動に関与する筋の起始・停止・神経支配とその特徴について		
25	股関節の運動に関与する筋	講義；股関節の運動に関与する筋の起始・停止・神経支配とその特徴について		

26	膝関節の運動に関与する筋	講義；膝関節の運動に関与する筋の起始・停止・神経支配とその特徴について		
27	足関節の運動に関与する筋	講義；足関節の運動に関与する筋の起始・停止・神経支配とその特徴について		
28	上肢の筋の走行と触診	実技		
29	下肢の筋の走行と触診	実技		
30	確認テスト2（筋学）	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
野村 嵯 他『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学』医学書院. 坂井建夫 他『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系』 林典雄『運動療法のための機能解剖学的触 診技術上肢/下肢・体幹』		確認試験 1		筆記試験と実技試験で判断する。
		筆記試験	25.0%	
		骨触診試験	25.0%	
		確認試験 2		
		筆記試験	25.0%	
		筋走行試験	25.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学Ⅱ		理学療法科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	松本 昇（実務経験有）
授業の概要				
内臓系について、形態構造のみの学習にとどまらず、関連器官と合わせてその構造と機能を学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
内臓系の構造と機能を、関連器官と合わせて理解する。 適切な専門用語を用いて説明することができることを目標にする。				
回	テーマ	内 容		
1	循環器系の構造①	講義		
2	循環器系の構造②	講義		
3	循環器系の構造③	講義		
4	循環器系の構造④	講義		
5	循環器系の構造⑤	講義		
6	呼吸器系の構造①	講義		
7	呼吸器系の構造②	講義		
8	呼吸器系の構造③	講義		
9	呼吸器系の構造④	講義		
10	呼吸器系の構造⑤	講義		
11	消化器系の構造①	講義		
12	消化器系の構造②	講義		
13	消化器系の構造③	講義		
14	消化器系の構造④	講義		
15	消化器系の構造⑤	講義		
16	消化器系の構造⑥	講義		
17	消化器系の構造⑦	講義		
18	消化器系の構造⑧	講義		
19	泌尿器系の構造①	講義		
20	泌尿器系の構造②	講義		
21	泌尿器系の構造③	講義		
22	泌尿器系の構造④	講義		
23	生殖器系の構造①	講義		
24	生殖器系の構造②	講義		
25	生殖器系の構造③	講義		
26	内分泌系の構造①	講義		
27	内分泌系の構造②	講義		
28	内分泌系の構造③	講義		
29	内分泌系の構造④	講義		
30	試験・解説	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・標準理学療法学・作業療法学「解剖学」 ・病気がみえる 1 消化器 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 2 循環器 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 3 糖尿病・代謝・内分泌 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 4 呼吸器 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 8 腎・泌尿器 MEDIC MEDIA		期末試験	100%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学Ⅲ		理学療法科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	杉本 はるか
授業の概要				
神経系の構成や役割を知り、各部分の名称、位置、機能を学習する。また、正常画像を学習し、画像診断学に活かせるようにする。				
〔実務経験〕 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
①神経系の構成が分かる ②神経系の役割が分かる ③各部分の名称、位置、機能が分かる ④正常画像により位置が理解できる				
回	テーマ	内 容		
1	神経系総論①	講義		
2	神経系総論②	講義		
3	神経系総論③	講義		
4	神経系総論④	講義		
5	脊髄①	講義		
6	脊髄②	講義		
7	大脳①	講義		
8	大脳②	講義		
9	大脳③	講義		
10	間脳①；視床	講義		
11	間脳②；視床下部	講義		
12	辺縁系の構造・機能	講義		
13	大脳基底核①	講義		
14	大脳基底核②	講義		
15	大脳基底核③	講義		
16	小脳①	講義		
17	小脳②	講義		
18	小脳③	講義		
19	脳幹①；中脳の構造	講義		
20	脳幹②；中脳の機能	講義		
21	脳幹③；橋の構造	講義		
22	脳幹④；橋の機能	講義		
23	脳幹⑤；延髄の構造	講義		
24	脳幹⑥；延髄の機能	講義		
25	髄膜の構造と機能	講義		
26	脳室の構造と機能	講義		
27	脳を栄養する血管について	講義		
28	上行路について	講義		
29	下行路について	講義		
30	期末試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
野村 嵯 他『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学』医学書院。 医療情報科学研究所『病気が見える脳・神経』		小テスト総合 期末試験	40.0% 60.0%	小テストと期末試験で判断する。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生理学Ⅰ		理学療法科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	兼八 勇治（実務経験有）
授業の概要				
人体の各臓器がいかにして恒常性維持に機能しているかを学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで表現するかを考える。 正常な生体機能を維持するための機能と、これらの調節に関する基本的知識を修得する。				
回	テーマ	内 容		
1	細胞と構造と機能①	講義		
2	細胞と構造と機能②	講義		
3	神経①	講義		
4	神経の興奮伝導①	講義		
5	末梢神経	講義		
6	自律神経①	講義		
7	自律神経②	講義		
8	自律神経③	講義		
9	自律神経④	講義		
10	自律神経⑤	講義		
11	自律神経⑥	講義		
12	中枢神経①	講義		
13	中枢神経②	講義		
14	中枢神経③	講義		
15	中枢神経④	講義		
16	中枢神経⑤	講義		
17	中枢神経⑥	講義		
18	筋の興奮収縮連関①	講義		
19	筋と神経	講義		
20	骨の形成と吸収	講義		
21	骨の成長と老化	講義		
22	感覚①	講義		
23	感覚②	講義		
24	感覚③	講義		
25	運動と骨格筋系①	講義		
26	運動と骨格筋系②	講義		
27	運動と神経系①	講義		
28	運動と神経系②	講義		
29	運動学習とトレーニング	講義		
30	試験・解説	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・標準理学療法学・作業療法学「生理学」 ・シンプル生理学 南江堂 ・病気がみえる 7 脳・神経 MEDIC MEDIA		期末試験	100%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生理学Ⅱ		理学療法科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	松本 昇（実務経験有）
授業の概要				
人体の各臓器がいかにして恒常性維持に機能しているかを学習する。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで表現するかを考える。 正常な生体機能を維持するための機能と、これらの調節に関する基本的知識を修得する。				
回	テーマ	内 容		
1	循環器①	講義		
2	循環器②	講義		
3	循環器③	講義		
4	循環器④	講義		
5	血液①	講義		
6	血液②	講義		
7	呼吸器①	講義		
8	呼吸器②	講義		
9	呼吸器③	講義		
10	呼吸器④	講義		
11	代謝①	講義		
12	代謝②	講義		
13	運動と循環	講義		
14	運動と呼吸	講義		
15	運動と代謝	講義		
16	消化器①	講義		
17	消化器②	講義		
18	消化器③	講義		
19	消化器④	講義		
20	消化器⑤	講義		
21	泌尿器①	講義		
22	泌尿器②	講義		
23	生殖器①	講義		
24	生殖器②	講義		
25	生殖器③	講義		
26	内分泌①	講義		
27	内分泌②	講義		
28	内分泌③	講義		
29	総まとめ	講義		
30	試験・解説	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・標準理学療法学・作業療法学「生理学」 ・シンプル生理学 南江堂 ・病気がみえる 1 消化器 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 2 循環器 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 3 糖尿病・代謝・内分泌 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 4 呼吸器 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 8 腎・泌尿器 MEDIC MEDIA		期末試験	100%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動学Ⅰ		理学療法科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	井崎 義己（実務経験有）
授業の概要				
運動器の基本構造と機能面について広く講義した後、肩甲帯、肩関節、肘関節の上肢運動学について講義していく。また、手関節、腕神経叢の構成に加え、膝関節、足関節の下肢運動学についても講義していく。 〔実務経験〕 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
本講義は、運動学の位置付けができ、筋・骨・関節の名称および形態をしる。 また、主に、上肢に関する関節の名称・構造の特徴を理解し、それぞれの関節の運動力学・筋骨格系との関連を知る。				
回	テーマ	内 容		
1	運動学とは	講義		
2	姿勢の名称と関節運動方向の名称	講義		
3	関節の基本的構造	講義		
4	可動関節の形態分類	講義		
5	骨格筋の構造と機能	講義		
6	骨格筋の構造と機能	講義		
7	確認テスト1	試験・解説		
8	肩関節の機能解剖と運動学①	講義		
9	肩関節の機能解剖と運動学②	講義		
10	肩関節運動に関与する筋①	講義		
11	肩関節運動に関与する筋②	講義		
12	肩関節にみられる疾患①	講義		
13	肩関節にみられる疾患②	講義		
14	確認テスト2	試験・解説		
15	肘関節・前腕の機能解剖と運動学①	講義		
16	肘関節・前腕の機能解剖と運動学②	講義		
17	肘関節・前腕の運動に関与する筋①	講義		
18	肘関節・前腕の運動に関与する筋②	講義		
19	肘関節・前腕にみられる疾患①	講義		
20	肘関節・前腕にみられる疾患②	講義		
21	確認テスト3	講義		
22	手関節の機能解剖と運動学①	講義		
23	手関節の機能解剖と運動学②	講義		
24	手部の機能解剖と運動学①	講義		
25	手部の機能解剖と運動学②	講義		
26	手関節・手部の運動に関与する筋①	講義		
27	手関節・手部の運動に関与する筋②	講義		
28	手関節・手部にみられる変形①	講義		
29	手関節・手部にみられる変形②	講義		
30	確認テスト4	試験・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
有馬慶美 他 監訳 『筋骨格系のキネシオロジー』 医歯薬出版。 青木隆明 監修 『運動療法のための機能解剖学的触診技術』 メディカルビュー 中村隆一 他 『基礎運動学』 医歯薬出版		確認テスト1	25.0%	單元ごとのテストで評価
		確認テスト2	25.0%	
		確認テスト3	25.0%	
		確認テスト4	25.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動学Ⅱ		理学療法科／2年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	川崎 明浩（実務経験有）
授業の概要				
股関節、膝関節、足関節、体幹の各分野において構造・機能が理解できるように講義を実施する。また、各関節の動きに関与する筋を覚え、触診し、動かせるよう演習を実施する。各関節に関連した評価やストレッチについて演習する。 歩行分析についての講義後に、繰り返し分析練習を実施しレポートの作成をする。 〔実務経験〕 病院・学校勤務				
授業終了時の到達目標				
本講義は、主に、股関節、膝関節、足関節、脊柱に係る関節の名称・機能を理解し、それぞれの関節の運動力学・筋骨格系との関連を知る。				
回	テーマ	内 容		
1	股関節の機能解剖と運動学①	講義		
2	股関節の機能解剖と運動学②	講義		
3	股関節周囲筋の触診①	講義		
4	股関節周囲筋の触診②	講義		
5	股関節に関する整形外科的検査	講義		
6	股関節に関する疾患	講義		
7	股関節に関する疾患	講義		
8	確認テスト1	試験・解説		
9	膝関節の機能解剖と運動学①	講義		
10	膝関節の機能解剖と運動学②	講義		
11	膝関節周囲筋の触診①	講義		
12	膝関節周囲筋の触診②	講義		
13	膝関節に関する整形外科的検査	講義		
14	膝関節に関する疾患	講義		
15	膝関節に関する疾患	講義		
16	確認テスト2	試験・解説		
17	足関節・足部の機能解剖と運動学①	講義		
18	足関節・足部の機能解剖と運動学②	講義		
19	足関節および足部の筋の特徴と触診①	講義		
20	足関節および足部の筋の特徴と触診②	講義		
21	足部にみられる変形	講義		
22	確認テスト3	試験・解説		
23	脊柱の基本構造	講義		
24	頭頸部の機能解剖と運動学	講義		
25	胸腰部の機能解剖と運動学	講義		
26	仙腸関節の機能解剖と運動学	講義		
27	頭頸部・体幹の筋の特徴と触診	講義		
28	頭頸部・体幹の筋の特徴と触診	講義		
29	脊柱部にみられる疾患	講義		
30	確認テスト4	試験・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
有馬慶美 他 監訳『筋骨格系のキネシオロジー』医歯薬出版. 青木隆明 監修『運動療法のための機能解剖学的触診技術』メディカルビュー 中村隆一 著『臨床運動学』医歯薬出版.		確認テスト1	25.0%	単元ごとのテスト で評価
		確認テスト2	25.0%	
		確認テスト3	25.0%	
		確認テスト4	25.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間発達学		理学療法科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	杉本 和彦（実務経験有）
授業の概要				
「人間の発達とはなにか？」臨床的視点に根差した人間発達学の知的体系を学ぶ。 人間の発達過程を①機能の発達、②社会生活活動の発達、③発達段階（胎生期～老年期）の視点から体系的に学習する。 [実務経験] 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
臨床的視点に根差した人間発達学の知的体系を理解する。 発達の諸段階（胎児期～老年期）と発達課題について理解する。また、社会生活活動の発達について理解する。				
回	テーマ	内 容		
1	人間の発達とは	講義		
2	人間発達における各機能の発達	講義		
3	人間発達における各機能の発達	講義		
4	人間発達における各機能の発達	講義		
5	人間発達における各機能の発達	講義		
6	社会生活活動の発達	講義		
7	社会生活活動の発達	講義		
8	社会生活活動の発達	講義		
9	社会生活活動の発達	講義		
10	社会生活活動の発達	講義		
11	胎生期の発達	講義		
12	乳児期の発達	講義		
13	幼児期の発達	講義		
14	青年期の発達	講義		
15	成人期の発達課題	講義		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
奈良 勲 監修『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学』医学書院		期末試験	100.0%	期末試験100%として、評価を行う

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
病理学概論		理学療法科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	星野 瞳、村元 暁文 （実務経験有）
授業の概要				
病理学は臨床への導入部として重要な位置を占めており、器官、組織および細胞の構造変化（病理変化）を通じて疾患を解析し、それらの病理変化の意義について学習する。疾病における組織・細胞・分子レベルでの原因・病態、そのメカニズムを理解する。 〔実務経験〕 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
病理学は臨床への導入部としての重要な位置を占めており、器官、組織および細胞の構造変化（病理変化）を通じて疾患を解析し、それらの病理変化の意義について学習する。疾病における組織・細胞・分子レベルでの原因・病態、そのメカニズムを理解し、臨床レベルでの病態把握へのステップとする。				
回	テーマ	内 容		
1	組織・細胞の傷害（変性、壊死、アポトーシス）、組織・細胞の修復と再生	講義、スライド		
2	循環障害（虚血、血栓症、梗塞、ショックなど）	講義、スライド		
3	炎症、免疫異常、感染症	講義、スライド		
4	腫瘍概論	講義、スライド		
5	先天異常、遺伝性疾患	講義、スライド		
6	循環器系疾患	講義、スライド		
7	呼吸器系疾患	講義、スライド		
8	消化器系疾患Ⅰ（消化管）	講義、スライド		
9	消化器系疾患Ⅱ（肝臓、胆道系、膵臓）	講義、スライド		
10	泌尿器系（腎臓、膀胱）、生殖器系疾患、乳腺疾患	講義、スライド		
11	造血器系疾患（貧血、白血病、リンパ腫）	講義、スライド		
12	内分泌系（脳下垂体、甲状腺、副腎、その他）	講義、スライド		
13	脳神経系疾患（循環障害、腫瘍、炎症、変性）	講義、スライド		
14	運動器系（筋肉、骨、関節）、その他	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
渡辺照男 編集『カラーで学べる病理学』 廣川書店. 渡辺照男 編集『カラーで学べる病理学整理ノート』廣川書店.		期末試験	100.0%	定期試験にて評価する

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床心理学		理学療法科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	北岸 有子（実務経験有）
授業の概要				
臨床心理学とは何か解説した後、ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について解説していく。講義後半ではカウンセリングについて講義し、カウンセリングの流れを解説していく。また事例を挙げて解説を加え、注意点も合わせて説明していく。 [実務経験] 学校勤務				
授業終了時の到達目標				
臨床心理学の基礎を学ぶことによって、人間への理解を深め、よりよい援助ができるようになることを目指す。				
回	テーマ	内 容		
1	臨床心理とは	講義、スライド		
2	臨床心理学アセスメント（1）方法	講義、スライド		
3	臨床心理学アセスメント（2）方法	講義、スライド		
4	臨床心理学アセスメント（3）発達臨床心理	講義、スライド		
5	臨床心理学の理論的背景（1）	講義、スライド		
6	臨床心理学の理論的背景（2）	講義、スライド		
7	自我の防衛機制について	講義、スライド		
8	心理学的援助の方法	講義、スライド		
9	心理学的援助の方法：集団	講義、スライド		
10	障害の受容：心理的なプロセス	講義、スライド		
11	心に傷を受けた人の心のケア	講義、スライド		
12	高齢者の心理臨床	講義、スライド		
13	危機介入とコンサルテーション	講義、スライド		
14	まとめ：現代の課題	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
町沢静夫 執筆『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学』医学書院。 名嘉幸一 編集『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 臨床心理学』中外医学社。		期末試験	100.0%	筆記試験

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
整形外科科学		理学療法科／2年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	杉本 はるか（実務経験有）
授業の概要				
整形外科疾患の成り立ちから考え、各疾患の基礎、治療、リハビリテーションまでを理解することができる。 【実務経験】施設勤務				
授業終了時の到達目標				
主な整形疾患の病態と治療、そのリハビリテーションについての基本的知識が理解できる				
回	テーマ	内 容		
1	I. 整形外科疾患を知るための病理学の基礎 1. 骨のリモデリング 2. 骨の治癒機転	講義		
2	3. 組織の修復について 4. 炎症について 5. 浮腫について	講義		
3	6. 痛みのメカニズムについて	講義		
4	II. 骨折 1. 骨折概論 2. 大腿骨頸部骨折	講義		
5	3. 橈骨遠位端骨折 4. 脊椎圧迫骨折	講義		
6	III. 筋・腱・靱帯損傷	講義		
7	IV. 脊髄損傷 1. 脊髄損傷とは 1) 受傷機転 2) 脊髄損傷の病態 3) 脊髄損傷の症状	講義		
8	2. 脊髄損傷の治療 1) 機能障害に対する治療 2) 能力障害に対する治療 3) 慢性期における合併症の予防と治療	講義		
9	V. 切断 1. 概論 2. 切断の実際 3. 義足の構成と構造	講義		
10	VI. 退行性疾患 1. 骨粗鬆症 2. 変形性脊椎症 3. 変形性関節症	講義		
11	VII. 循環障害と壊死性疾患 1. osgood-shlatter病 2. Perthes病 3. 突発性大腿骨頭壊死症	講義		
12	4. キーンベック病 5. 第一ケーラー病 6. 第二ケーラー病 7. 踵骨骨端症	講義		
13	VIII. 頸椎・腰椎疾患 IX. 末端神経損傷	講義		
14	X. スポーツ障害	講義		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
鳥巢岳彦 他『標準整形外科科学 第12版』医学書院. 東博彦 他『整形外科サブノート』南江堂. 加倉井周一・渡辺英夫 著『運動器疾患とリハビリテーションーPT・OTのための整形外科科学』医歯薬出版.		期末試験	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
内科学Ⅰ		理学療法科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	竹村 繭美（実務経験有）
授業の概要				
内部障害について、成因、病態を詳解し、疫学、臨床像、検査と診断、治療、評価、予後などについて幅広く学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
総論としては内科学診断のためのアプローチや治療法について述べる。各論では、循環器・呼吸器・消化管・血液・内分泌疾患などについて学ぶ。また、一般病院・専門病院における理学療法士としての必要な内科学の基本的な知識を習得することを目標とする。				
回	テーマ	内 容		
1	内科学とは	講義		
2	診断と治療の実際	講義		
3	〃	講義		
4	症候学	講義		
5	〃	講義		
6	循環器疾患	講義		
7	〃	講義		
8	呼吸器疾患	講義		
9	〃	講義		
10	消化管疾患	講義		
11	〃	講義		
12	肝胆膵疾患	講義		
13	〃	講義		
14	血液・造血器疾患	講義		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
大成浄志 執筆 『標準理学療法学・作業療法学 専門分野 内科学』医学書院.		期末試験	100%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
内科学Ⅱ		理学療法科／2年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	竹村 繭美（実務経験有）
授業の概要				
内部障害について、成因、病態を詳解し、疫学、臨床像、検査と診断、治療、評価、予後などについて幅広く学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
内科学Ⅰの広げた範囲での各疾患毎について学ぶ。また、一般病院・専門病院における理学療法士としての必要な内科学の基本的な知識を習得することを目標とする。				
回	テーマ	内 容		
1	循環器疾患①	講義		
2	循環器疾患②	講義		
3	循環器疾患③	講義		
4	循環器疾患④	講義		
5	呼吸器疾患①	講義		
6	呼吸器疾患②	講義		
7	呼吸器疾患③	講義		
8	呼吸器疾患④	講義		
9	消化器疾患①	講義		
10	消化器疾患②	講義		
11	消化器疾患③	講義		
12	泌尿器疾患①	講義		
13	泌尿器疾患②	講義		
14	代謝、内分泌疾患	講義		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
大成浄志 執筆 『標準理学療法学・作業療法学 専門分野 内科学』医学書院.		期末試験	100%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
神経内科学		理学療法科／2年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	竹村 繭美（実務経験有）
授業の概要				
神経内科学とは、中枢・末梢神経系および筋肉の内科的疾患を対象とする臨床医学である。リハビリテーションの対象は、神経筋骨格系に生ずる身体障害であるが、本講義は神経内科学総論であり、関連疾患の臨床症状や診断法について述べる。学習目的は関連用語の修得とリハビリテーション医学に於ける障害分析能力の育成である。 [実務経験] 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
主な中枢神経疾患、末梢神経疾患の病態と症状などについて学ぶ				
回	テーマ	内 容		
1	Parkinson病を知るための基礎知識	講義		
2	Parkinson病の病態・症状について	講義		
3	Parkinson病の治療薬について	講義		
4	Parkinson病の評価	講義		
5	Parkinson症候群について	講義		
6	確認テスト1	試験		
7	脳血管障害を知るための基礎知識	講義		
8	脳血管障害の分類 脳梗塞の臨床病態について	講義		
9	脳血管障害の症状について	講義		
10	脳血管障害の評価について	講義		
11	確認テスト2	試験		
12	神経筋疾患の病態	講義		
13	神経筋疾患の病態	講義		
14	筋萎縮性側索硬化症（ALS）について	講義		
15	筋萎縮性側索硬化症（ALS）について	講義		
16	脱髄疾患について	講義		
17	脱髄疾患について	講義		
18	重症筋無力症について	講義		
19	重症筋無力症について	講義		
20	筋ジストロフィーについて	講義		
21	筋ジストロフィーについて	講義		
22	確認テスト3	試験		
23	運動失調症とは	講義		
24	運動失調症の種類とその特徴	講義		
25	運動失調症の評価	講義		
26	運動失調症の運動療法	講義		
27	運動失調をきたす疾患① 脊髄小脳変性症	講義		
28	運動失調をきたす疾患② 多系統萎縮症	講義		
29	確認テスト4	試験		
30	まとめのテスト	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
川平和美 他著『標準理学療法学・作業療法学 神経内科学』医学書院. 田崎義昭・齋藤佳雄『ベッドサイドの神経の診かた』南山堂		確認テスト総合 まとめのテスト	50.0% 50.0%	確認テストとまとめのテストで評価する。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
精神医学		理学療法科／3年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	金山 秀彦（実務経験有）
授業の概要				
主な精神疾患の症状・診断・治療について学習し、国家試験に対応でき、臨床に役立つ知識を習得する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
精神医学における主要疾患の症状、診断、治療について述べ、精神療法の概要についても理解を深め、将来の臨床経験に役立てる。				
回	テーマ	内 容		
1	精神医学について	講義、スライド		
2	精神医学における症状	講義、スライド		
3	躁うつ病とうつ病	講義、スライド		
4	統合失調症	講義、スライド		
5	神経症と心身症	講義、スライド		
6	ストレスと自殺について	講義、スライド		
7	児童期精神医学	講義、スライド		
8	思春期精神医学	講義、スライド		
9	青春期精神医学	講義、スライド		
10	中年期精神医学	講義、スライド		
11	老年期精神医学	講義、スライド		
12	薬物依存、人格障害	講義、スライド		
13	精神科治療学	講義、スライド		
14	総括	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
上野武治 編集『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学』医学書院.		期末試験	100.0%	筆記試験

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
小児科学		理学療法科／2年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	杉本 和彦（実務経験有）
授 業 の 概 要				
小児の医療とリハビリテーションをめぐる事柄全般について学習する。 【実務経験】病院・学校勤務				
授業終了時の到達目標				
子どもの成長に対する概論と、理学療法士・作業療法士が関わることの多い疾患について理解する				
回	テ ー マ	内 容		
1	子どもの成長と発育、ライフサイクルにおける小児期の発達課題	講義、スライド		
2	子どもの成長と発育、ライフサイクルにおける小児期の発達課題	講義、スライド		
3	正常発達について①	講義、スライド		
4	正常発達について②	講義、スライド		
5	正常発達について③	講義、スライド		
6	正常発達について④	講義、スライド		
7	脳性麻痺について①	講義、スライド		
8	脳性麻痺について②	講義、スライド		
9	脳性麻痺について③	講義、スライド		
10	脳性麻痺について④	講義、スライド		
11	発達障害について①	講義、スライド		
12	発達障害について②	講義、スライド		
13	発達障害について③	講義、スライド		
14	発達障害について④	講義、スライド		
15	テスト	テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
奈良勲・鎌倉矩子・富田豊編『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学』医歯薬出版.		期末試験	100.0%	筆記試験

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
一般医学		理学療法科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	井崎 義己（実務経験有）
授業の概要				
救急医学の概要と救急措置法について概説する。リハビリテーション医療に必要な救急病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を学習する。次に、外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の代表的疾患について、病態、症状、検査、評価、治療を学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 救急疾患の病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を修得する。 2. 外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科の代表的疾患について、病態、特徴的に現れる症状、治療法を説明できる。 3. 外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科疾患におけるリハビリテーション留意事項を説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	救急医学総論①	講義、スライド		
2	救急医学総論②	講義、スライド		
3	救急医学各論①	講義、実技・演習		
4	救急医学各論②	講義、実技・演習		
5	救急医学各論③	講義、実技・演習		
6	産科学	講義、スライド		
7	婦人科学	講義、スライド		
8	皮膚科学	講義、スライド		
9	皮膚科学	講義、スライド		
10	皮膚科学	講義、スライド		
11	眼科学	講義、スライド		
12	眼科学	講義、スライド		
13	耳鼻咽喉科学	講義、スライド		
14	耳鼻咽喉科学	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
医歯薬出版：PT・OTのための一般臨床医学：明石謙		期末試験	100%	定期試験にて評価する。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
薬理学		理学療法科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	西本 侑市（実務経験有）
授業の概要				
薬理学は、生体と外界の化合物（薬）との相互作用の結果生じる現象を研究する学問である。本講義では、まず、薬理作用を理解するための生物学的な基礎知識の習得に重点を置き、分子レベル、細胞レベル、個体レベルで、薬の作用のメカニズムを説明する。 また、薬の体の中で動態、有害反応を学ぶことにより、臨床講義や実習で必要とされる薬物治療の基礎を習得できることを目指す。【実務経験】施設勤務				
授業終了時の到達目標				
・人の身体の生理学や代謝の原理的理解を基盤として、医薬等が、どのような薬理作用を示すか、その作用機構について理解できる。 ・個々の医薬品について具体例をもってその作用を理解できる。 ・医薬品による医療事故、サプリメント、食品の安全などについて、原理的に、人の身体に外から投入された物質と身体の相互作用に基づいていることを理解できる。				
回	テーマ	内 容		
1	薬理学概論	講義		
2	人の体の動きの原理的理解	講義		
3	薬理作用の分類	講義		
4	薬物の体内動態	講義		
5	薬物の作用機序	講義		
6	サプリメント、食品添加物などの薬理学的側	講義		
7	麻薬、毒物などに対する理解	講義		
8	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	期末試験によって評価します。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
画像診断学		理学療法科／2年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	松本 昇（実務経験有）
授業の概要				
リハビリテーションに携わる医療専門職には、各種画像診断、生理機能検査学の基本的理解が必要である。 本講では、放射線医学の基礎、人体各部位のエックス線、CT、MRI の検査方法と画像診断を学習する。 生理機能検査学では、心電図、呼吸機能検査、血液ガス検査検査、脳波、筋電図検査、超音波検査について、その臨床的意義、情報収集技術、結果の解析、評価法を学習する。 【実務経験】施設勤務				
授業終了時の到達目標				
1. X 線、CT、MRI の検査方法と、胸部、腹部、頭部画像診断を説明できる。 2. 心電図、呼吸機能検査、脳波、筋電図検査の臨床的意義、情報収集技術、評価法を説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	画像診断学総論	講義、スライド		
2	生理機能検査学総論	講義、スライド		
3	生理機能検査学各論①	講義、スライド		
4	生理機能検査学各論②	講義、スライド		
5	生理機能検査学各論③	講義、スライド		
6	生理機能検査学各論④	講義、スライド		
7	放射線医学総論	講義、スライド		
8	画像診断学各論①	講義、スライド		
9	画像診断学各論②	講義、スライド		
10	画像診断学各論③	講義、スライド		
11	画像診断学各論④	講義、スライド		
12	まとめ	講義、スライド		
13	まとめ	講義、スライド		
14	まとめ	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
医学教育出版社：PT・OTのための画像診断マニュアル：百島祐貴		期末試験	100.0%	筆記試験として100%評価

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床栄養学		理学療法科／2年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	杉本 はるか（実務経験有）
授業の概要				
食育とはなにか解説し、食育の現状と課題について講義する。またライフスタイルごとの食育、日本と諸外国での食文化を比較しながら講義を進めていく。 栄養についても栄養素の種類とそれらが体に及ぼす影響について講義し、さらに基礎代謝量やエネルギー消費量についての講義、計算方法も解説していく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
食育基本法が制定され、食育推進基本計画に基づき、啓蒙普及にかかる様々な取り組みが活発に展開され全国的な広がりを見せている。本講義では、逸早く時代のニーズを取り入れ、自らが正しい食育を理解・実践し、更に食育について指導出来る質の高い教育を目指すことを目標とする。				
回	テーマ	内 容		
1	食育学概論（なぜ食育か）	講義、スライド		
2	食育基本法と食育推進基本計画	講義、スライド		
3	おいしさと科学（五味・五感について学ぶ）	講義、スライド		
4	選食力（食品識別法・食材の旬・食品の表示を学ぶ）	講義、スライド		
5	食の安全・安心（様々な食害と食中毒防止について学ぶ）	講義、スライド		
6	食事バランス（規則正しい食生活を：食事バランスガイドを活用して）	講義、スライド		
7	食育実習（コミュニケーション技術・プレゼンテーション技術等）	講義、スライド		
8	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『食育インストラクター教本』社団法人 全国調理師養成施設協会。 服部幸應 著『食育の本』LOCUS MOOK。 細谷憲政 著『人間栄養学』調理栄養教育公社。 荒川信彦・田島眞 編著『食品学』調理栄養教育公社。		期末試験	100.0%	筆記試験

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
リハビリテーション概論		理学療法科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	井崎 義己（実務経験有）
授 業 の 概 要				
リハビリテーションの概念と定義、障害者処遇の歴史、障害・障害者と国際基準、障害者心理、リハビリテーションの4つの側面と我が国の障害者施策について学ぶ。リハビリテーションに携わる理学療法、作業療法、言語聴覚療法のそれぞれの概要および医療チームにおける役割と他職種連携について学ぶ。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
本講義では、リハビリテーションの概念・理論を学習した上で、社会における必要性・具体的な対象や方法についての知識を理解する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	リハビリテーションの理論と歴史	講義、スライド		
2	定義と目標	講義、スライド		
3	組織と構成	講義、スライド		
4	対象と範囲	講義、スライド		
5	歴史的展開	講義、スライド		
6	リハビリテーション関連専門職の現状と課題	講義、スライド		
7	〃	講義、スライド		
8	医学的リハビリテーション	講義、スライド		
9	〃	講義、スライド		
10	保健・福祉分野におけるリハビリテーション	講義、スライド		
11	〃	講義、スライド		
12	社会的・教育的・職業的リハビリテーション	講義、スライド		
13	〃	講義、スライド		
14	リハビリテーションの展開	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
中村隆一編『入門リハビリテーション概論』医歯薬出版.		期末試験	100.0%	定期試験にて評価する

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
公衆衛生学		理学療法科／3年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	橋詰 善和（実務経験有）
授業の概要				
地域で生活する人々の健康の維持・増進・向上のために必要な公衆衛生学について学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
健康と福祉の理念に基づく公衆衛生の実践が世界の人類の平和と安全に貢献することを理解し、医療従事者としての自覚と研鑽に役立つ学習を目指す。				
回	テーマ	内 容		
1	公衆衛生の意義	講義、スライド		
2	地域保健と医療制度	講義、スライド		
3	国際保健	講義、スライド		
4	疫学概論	講義、スライド		
5	疫学指標	講義、スライド		
6	保健統計資料の活用	講義、スライド		
7	生活習慣病の疫学	講義、スライド		
8	母子保健	講義、スライド		
9	学校保健	講義、スライド		
10	精神保健福祉	講義、スライド		
11	感染症対策	講義、スライド		
12	健康づくり	講義、スライド		
13	産業保健	講義、スライド		
14	環境衛生と公害	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
柳川洋・萱場一則 編著『公衆衛生学 コメディカルのための専門基礎分野テキスト』中外医学社. 鈴木庄亮・久道茂 編『シンプル公衆衛生学』南江堂.		期末試験	100.0%	筆記試験で判断する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会保障論		理学療法科／3年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	青池 浩生（実務経験無）
授 業 の 概 要				
社会福祉全般について学び、医療事故やホスピタルなど福祉と医療に関連する課題を知り、社会で役立てられるようにする。 【実務経験】なし				
授業終了時の到達目標				
本講義では、社会福祉全般についての理解を深めることを旨とし、社会福祉の歴史、理念、また社会福祉制度や社会保障、さらには社会福祉援助技術、その方法論など幅広い知識の習得に努める。また、現代社会が抱える様々な福祉ニーズを整理し、医療事故やホスピスなど福祉と医療に関連する課題についても考察する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	社会福祉の理念と意義	講義		
2	現代社会福祉の展開	講義		
3	社会保障制度、公的扶助	講義		
4	児童福祉、障害者福祉	講義		
5	高齢者福祉の理念 法律 施設	講義		
6	障害者福祉 分類 法律 障害者総合支援法	講義		
7	これからの社会福祉の課題 専門職	講義		
8	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
成清美治・加納光子 編『社会福祉』学文社. 西尾祐吾『はじめて出会う社会福祉』相川書房. 福祉士養成講座編集委員会 編『社会福祉原論』中央法規. 大利一雄『グループワーク理論とその導き方』勁草書房.		期末試験	100.0%	筆記試験

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
多職種連携		理学療法科／2年	2024／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	達川 仁路（実務経験有）
授 業 の 概 要				
現代社会における保健・医療・福祉では、個体差に基づいた個々人に最も適したケア、および個人の人格を尊重し、個々人を最も幸福にするケアが求められている。また、高度に専門化し複雑化した保健・医療・福祉システムや、少子高齢化時代を迎えるにあたり、専門職業人が協働する「多職種連携」が必要とされている。この講義では、多職種連携の理念と方法、その具体的実践について学ぶ。 【実務経験】施設勤務				
授業終了時の到達目標				
1・個人差に応じた健康科学の理念と実践について理解できる。 2・多職種連携の理念と実践について理解できる。 3・一人ひとりのケアのために必要とされる多職種連携の意義について理解できる。 4・チームにおいて信頼関係を築きながら目標に向かって協働することができる。 5・目指すべき新医療人とはどのような専門職業人かを説明できる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション	講義、スライド		
2	多職種連携のベース①	講義、スライド		
3	多職種連携のベース②	講義、スライド		
4	地域医療・福祉の連携①	講義、スライド		
5	地域医療・福祉の連携②	講義、スライド		
6	多職種連携①	講義、スライド		
7	多職種連携②	講義、スライド		
8	多職種連携③	講義、スライド		
9	多職種連携④	講義、演習、スライド		
10	多職種連携⑤	講義、スライド		
11	多職種連携⑥	講義、演習、スライド		
12	多職種連携⑦	講義、スライド		
13	多職種連携⑧	講義、スライド		
14	多職種連携⑨	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
北島政樹 編 「医療福祉をつなぐ関連職種連携」 南江堂 2013 埼玉県立大学 編 「IPWを学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規 2009		期末試験	100.0%	定期試験にて評価する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法概論Ⅰ		理学療法科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	杉本 はるか（実務経験有）
授 業 の 概 要				
理学療法士の活躍するフィールドを調べ、発表することで理解を深めていく。 理学療法士の組織団体について、日本と世界の理学療法士教育システムの違いについて講義を進める。 医療保険と介護保険制度について講義を進め、日本の理学療法を取り巻く現況を学習する。 リハビリは一生受けられるのか？その答えを考えながら聴講してください。[実務経験] 施設勤務				
授業終了時の到達目標				
本講義は、理学療法及び関連分野の全体像を把握することにより、在学中の学習目標、学習方法を明確にすることを目標とする。 理学療法士を取り巻く法律制度、医療制度、社会的役割、組織、管理、教育制度、理学療法が対象とする疾患、治療法の概要、歴史、哲学、倫理などについて概観し、次学年からの専門科目学習のための基礎知識とする。				
回	テ ー マ	内 容		
1	授業の進め方、学習法	講義、スライド		
2	理学療法士の法律制度と医療における位置づけ(1)	講義、スライド		
3	理学療法士の法律制度と医療における位置づけ(2)	講義、スライド		
4	理学療法の社会的役割(1)	講義、スライド		
5	理学療法の社会的役割(2)	講義、スライド		
6	理学療法士の組織と活動	講義、スライド		
7	理学療法に関する教育制度	講義、スライド		
8	理学療法の対象疾患と治療手段	講義、スライド		
9	理学療法の対象疾患と治療手段	講義、スライド		
10	理学療法の対象疾患と治療手段	講義、スライド		
11	理学療法の歴史、哲学、倫理(1)	講義、スライド		
12	理学療法の歴史、哲学、倫理(2)	講義、スライド		
13	病院、施設見学の意義と目的①	講義、スライド		
14	病院、施設見学の意義と目的②	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
奈良編『理学療法概論』医歯薬出版. 松村編『理学療法』医歯薬出版.		期末試験	100.0%	筆記試験

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法概論Ⅱ		理学療法科／2年	2024／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	杉本 はるか（実務経験有）
授 業 の 概 要				
理学療法概論Ⅰで学んだ基礎知識に追加して、理学療法士として働くにあたり、医療保険、介護保険、その他の分野などを学習し、知識を広げていく。 【実務経験】施設勤務				
授業終了時の到達目標				
理学療法士として働くにあたり、理学療法士として、知っておくべき内容を理解していく。また、知っておくべき内容としては、医療保険、介護保険、研究分野、その他の分野などを理解する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	病院組織の管理運営と理学療法士	講義、スライド		
2	理学療法部門の職場管理と理学療法士の職業倫理	講義、スライド		
3	理学療法士教育とは①	講義、スライド		
4	理学療法士教育とは②	講義、スライド		
5	臨床実習のあるべき姿とは①	講義、スライド、演習		
6	臨床実習のあるべき姿とは②	講義、スライド、演習		
7	理学療法研究とは？①	講義、スライド		
8	理学療法研究とは？②	講義、スライド		
9	医療保険について①	講義、スライド		
10	医療保険について②	講義、スライド、演習		
11	介護保険について①	講義、スライド		
12	介護保険について②	講義、スライド、演習		
13	リスク管理について①	講義、スライド		
14	リスク管理について②	講義、スライド、演習		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
奈良編『理学療法概論』医歯薬出版. 松村編『理学療法』医歯薬出版.		期末試験	100.0%	筆記試験

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床運動学		理学療法科／2年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	森下 正憲（実務経験有）
授業の概要				
臨床における運動障害を、機能解剖学および運動生理学的知識に基づいて理解する。 【実務経験】病院・学校勤務				
授業終了時の到達目標				
1) 正常歩行動作に関する運動学的基礎知識を説明することができる 2) 基本動作の分析から問題点を抽出することができる 3) 基本的動作を適切に誘導することができる				
回	テーマ	内 容		
1	寝返り動作の分析	講義、スライド		
2	寝返り動作の分析	講義、スライド		
3	寝返り動作の誘導	講義、スライド		
4	寝返り動作の誘導	講義、スライド		
5	起き上がり動作の分析	講義、スライド		
6	起き上がり動作の分析	講義、スライド		
7	起き上がり動作の誘導	講義、スライド		
8	起き上がり動作の誘導	講義、スライド		
9	立ち上がり動作の分析	講義、スライド		
10	立ち上がり動作の分析	講義、スライド		
11	立ち上がり動作の誘導	講義、スライド		
12	立ち上がり動作の誘導	講義、スライド		
13	バイオメカニクス概論	講義、スライド		
14	バイオメカニクス概論	講義、スライド		
15	姿勢分析	講義、スライド		
16	姿勢分析	講義、スライド		
17	正常歩行動作概論①	講義、スライド		
18	正常歩行動作概論②	講義、スライド		
19	正常歩行動作概論③	講義、スライド		
20	正常歩行動作概論④	講義、スライド		
21	正常歩行動作概論⑤	講義、スライド		
22	正常歩行動作概論⑥	講義、スライド		
23	正常歩行動作概論⑦	講義、スライド		
24	正常歩行動作概論⑧	講義、スライド		
25	歩行動作分析①	講義、スライド		
26	歩行動作分析②	講義、スライド		
27	歩行動作分析③	講義、スライド		
28	歩行動作分析④	講義、スライド		
29	歩行動作分析⑤	講義、スライド		
30	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
中村隆一 編著『臨床運動学』医歯薬出版.		期末試験	100.0%	筆記試験

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
言語聴覚療法概論		理学療法科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	横山 実(実務経験有)
授業の概要				
言語聴覚分野に対し、興味を持ち、失語や嚥下機能だけではなく、高次機能障害や認知症などの分野に対して理解を深めていく				
〔実務経験〕施設勤務				
授業終了時の到達目標				
失語症や嚥下障害の理解を深め、さらに認知症をはじめとしたさまざまな高次脳機能障害に対する基本的知識を学ぶ。				
回	テーマ	内 容		
1	言語聴覚療法とは	講義、演習		
2	言語聴覚療法の種類と原因	講義、演習		
3	失語症の臨床症状とリハビリテーション	講義、演習		
4	失語症の臨床症状とリハビリテーション	講義、演習		
5	失語症の臨床症状とリハビリテーション	講義、演習		
6	嚥下障害について	講義、演習		
7	嚥下障害について	講義、演習		
8	認知症について	講義、演習		
9	認知症について	講義、演習		
10	高次脳機能障害概論	講義、演習		
11	画像診断	講義、演習		
12	半側空間無視について	講義、演習		
13	失行症状について	講義、演習		
14	まとめ	講義、演習		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
宮本健作 編著『聴覚・言語・嚥下の基礎と障害』ブレーン出版. 『失語症治療へのアプローチ』中外医学社.		期末試験	100.0%	筆記試験

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
作業療法概論		理学療法科／1年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	丁子 雄希（実務経験有）
授 業 の 概 要				
作業療法に関することを学習します。特に精神疾患や手指巧緻動作などについて学習し、作業療法分野への理解を深めていきます。				
〔実務経験〕 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1) 作業療法実践の枠組みがわかる 2) 作業療法実践の実際がわかる 3) 作業療法を専門用語を使って説明できる				
回	テ ー マ	内 容		
1	作業療法とは	講義、スライド		
2	作業療法の原理	講義、スライド		
3	作業療法の理論	講義、スライド		
4	作業療法の過程	講義、スライド		
5	作業療法の教育	講義、スライド		
6	作業療法の実際①	講義、実技		
7	作業療法の実際②	講義、実技		
8	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	筆記試験

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法管理学		理学療法科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	西潟 央（実務経験有）
授 業 の 概 要				
組織での理学療法部門は単独で機能しておらず、他職種との関係性を全体の枠組みの中でとらえていく必要がある。その為にも、理学療法部門の組織内での位置づけと役割、診療記録や他の記録の意義と運用、事故対応策などについて考察しながら、臨床現場における理学療法が効果的に実施できるためのマネジメントを学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
医療機関における理学療法部門の位置づけとチーム医療における役割を理解する。また、管理業務から臨床教育の基本について学び、臨床現場における理学療法が効果的に実施できるようプランを作成する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	管理、マネジメント①	講義		
2	管理、マネジメント②	講義		
3	理学療法管理学①	講義		
4	理学療法管理学②	講義		
5	理学療法士の職業倫理①	講義		
6	理学療法士の職業倫理②	講義		
7	組織運営とマネジメント	講義		
8	理学療法士の職場管理①	講義		
9	理学療法士の職場管理②	講義		
10	理学療法業務のマネジメント	講義		
11	教育研究のマネジメント	講義		
12	保健制度と年金制度、雇用制度	講義		
13	生活保護制度、健康増進法	講義		
14	疾患別・病気別の理学療法マネジメント	講義		
15	試験・解説	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・奈良勲編著 理学療法管理学 医歯薬出版株式会社		期末試験	100%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法Ⅰ		理学療法科／1年	2023／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	兼八 勇治（実務経験有）
授業の概要				
評価とは何かを考え、解剖学基礎で学習している骨、筋に対し、筋の走行、触診を含め行う。				
〔実務経験〕施設勤務				
授業終了時の到達目標				
理学療法評価の目的・意義・機能について理解する。面接・問診・情報収集について実践できる知識と技術を習得する。また、骨触診、筋触診、筋走行に必要な知識、技術を習得する				
回	テーマ	内 容		
1	骨触診について①	講義、スライド		
2	骨触診について②	講義、スライド		
3	骨触診について③	講義、スライド		
4	骨触診について④	講義、実技		
5	骨触診について⑤	講義、実技		
6	骨触診について⑥	講義、実技		
7	筋触診について①	講義、実技		
8	筋触診について②	講義、実技		
9	筋触診について③	講義、実技		
10	筋の走行について①	講義、実技		
11	筋の走行について②	講義、実技		
12	筋の走行について③	講義、実技		
13	筋の走行について④	講義、実技		
14	実技試験	試験		
15	筆記試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Cynthia C. Norkin, D. Joyce White 著・木村哲彦 監訳『関節可動域測定法』協同医書出版社。 内山靖 編集『標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学』医学書院。 野島元雄 監訳『図解 四肢と脊柱の診かた』医歯薬出版。 和才嘉昭・嶋田智明 著『測定と評価』医歯薬出版。		実習・実技評価 期末試験	50.0% 50.0%	筆記・実技試験によって評価。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法Ⅱ		理学療法科／1年	2023／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	兼八 勇治（実務経験有）
授業の概要				
評価とは何かを考え、評価測定法Ⅰで学習したことをふまえ、その中で血圧測定、形態測定、可動域測定の技術習得を目指していく。 【実務経験】施設勤務				
授業終了時の到達目標				
評価測定法Ⅰの学習内容も含め、血圧測定、形態測定、可動域測定の習得				
回	テーマ	内 容		
1	理学療法評価とは	講義、スライド		
2	調査・面接・問診	講義、スライド		
3	医学的・社会的情報収集	講義、スライド		
4	形態測定。血圧測定について	講義、スライド		
5	形態測定。血圧測定（実技）	講義・実技		
6	形態測定。血圧測定（実技）	講義・実技		
7	可動域について	講義・実技		
8	可動域測定（実技）	講義・実技		
9	可動域測定（実技）	講義・実技		
10	可動域測定（実技）	講義・実技		
11	可動域測定（実技）	講義・実技		
12	可動域測定（実技）	講義・実技		
13	可動域測定（実技）	講義・実技		
14	可動域測定（実技）	講義・実技		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Cynthia C. Norkin, D. Joyce White 著・木村哲彦 監訳『関節可動域測定法』協同医書出版社。 内山靖 編集『標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学』医学書院。 野島元雄 監訳『図解 四肢と脊柱の診かた』医歯薬出版。 和才嘉昭・嶋田智明 著『測定と評価』医歯薬出版。		実習・実技評価 期末試験	50.0% 50.0%	筆記・実技試験によって判断。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法Ⅲ		理学療法科／2年	2024／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	小西 大海（実務経験有）
授 業 の 概 要				
徒手筋力測定法について原理から実技までを学習していく。 【実務経験】施設勤務				
授業終了時の到達目標				
徒手筋力測定法について筆記面、実技面で習得していく。				
回	テ ー マ	内 容		
1	徒手筋力検査の原理	講義		
2	徒手筋力検査の原理	講義		
3	徒手筋力検査の原理	講義		
4	徒手筋力検査の原理	講義		
5	徒手筋力検査法（上肢）	実技		
6	徒手筋力検査法（上肢）	実技		
7	徒手筋力検査法（上肢）	実技		
8	徒手筋力検査法（上肢）	実技		
9	徒手筋力検査法（上肢）	実技		
10	徒手筋力検査法（上肢）	実技		
11	徒手筋力検査法（下肢）	実技		
12	徒手筋力検査法（下肢）	実技		
13	徒手筋力検査法（下肢）	実技		
14	徒手筋力検査法（下肢）	実技		
15	徒手筋力検査法（下肢）	実技		
16	徒手筋力検査法（下肢）	実技		
17	徒手筋力検査法（肩甲帯）	実技		
18	徒手筋力検査法（肩甲帯）	実技		
19	徒手筋力検査法（肩甲帯）	実技		
20	徒手筋力検査法（肩甲帯）	実技		
21	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
22	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
23	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
24	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
25	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
26	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
27	実技試験	試験		
28	実技試験	試験		
29	筆記試験	試験		
30	筆記試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery著・津山直一 訳 『新・徒手筋力検査法』協同医書出版社. 内山靖 編集『標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学』医学書院. 和才嘉昭・嶋田智明 著『測定と評価』医歯薬出版.		期末試験 実技試験	50.0% 50.0%	筆記試験、実技試験にて評価

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法Ⅳ		理学療法科／2年	2024／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	兼八 勇治（実務経験有）
授業の概要				
感覚検査、整形外科的手検査、痛み、筋緊張検査、協調性検査などを筆記面、実技面ともに学習し、各評価において、概論から各疾患に対する評価の選択が行えるようにする。 【実務経験】施設勤務				
授業終了時の到達目標				
感覚検査、整形外科的手検査、痛み、筋緊張検査、協調性検査などを筆記面、実技面ともに学習し、各評価において、概論から各疾患に対する評価の選択が行えるようにする。また、筆記面、実技面において知識、技術を習得する				
回	テーマ	内 容		
1	知覚検査	講義、実技		
2	知覚検査	講義、実技		
3	知覚検査	講義、実技		
4	知覚検査	講義、実技		
5	反射検査	講義、実技		
6	反射検査	講義、実技		
7	反射検査	講義、実技		
8	反射検査	講義、実技		
9	整形外科疾患検査	講義、実技		
10	整形外科疾患検査	講義、実技		
11	整形外科疾患検査	講義、実技		
12	整形外科疾患検査	講義、実技		
13	痛みの評価	講義、実技		
14	痛みの評価	講義、実技		
15	脳神経検査	講義、実技		
16	脳神経検査	講義、実技		
17	姿勢反射検査	講義、実技		
18	姿勢反射検査	講義、実技		
19	筋トーンス検査	講義、実技		
20	筋トーンス検査	講義、実技		
21	筋トーンス検査	講義、実技		
22	筋トーンス検査	講義、実技		
23	協調性検査	講義、実技		
24	協調性検査	講義、実技		
25	協調性検査	講義、実技		
26	協調性検査	講義、実技		
27	実技試験	試験		
28	実技試験	試験		
29	筆記試験	試験		
30	筆記試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery 著・津山直一 訳 『新・徒手筋力検査法』協同医書出版社. 内山靖 編集『標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学』医学書院. 和才嘉昭・嶋田智明 著『測定と評価』医歯薬出版.		筆記試験 実技試験	50.0% 50.0%	筆記試験、実技試験にて評価

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法演習Ⅰ		理学療法科／2年	2024／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	兼八 勇治（実務経験有）
授 業 の 概 要				
評価測定法で学習した内容を病院・施設に出向き、患者様、利用者を対象に演習を行い、レジュメ作成までの過程を学ぶ。臨床実習のプレ実習として行う。 【実務経験】兼八 勇治（実務経験有）				
授業終了時の到達目標				
疾患を有する方に対して検査測定ができるようにする。 また、問題点を抽出し統合と解釈までをレジュメ作成から学ぶ。				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション	講義		
2	症例準備①	講義、スライド		
3	症例準備②	講義、スライド		
4	症例評価①	外部実習		
5	症例評価②	外部実習		
6	レジュメ作成①	講義、スライド		
7	レジュメ作成②	講義、スライド		
8	まとめ	講義、スライド		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
なし		演習評価 課題評価	50.0% 50.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法演習Ⅱ		理学療法科／3年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	北野 剛士（実務経験有）
授 業 の 概 要				
評価測定法で学習した内容を病院・施設に出向き、患者様、利用者を対象に演習を行い、レジュメ作成までの過程を学ぶ。臨床実習のプレ実習として行う。 【実務経験】北野 剛士（実務経験有）				
授業終了時の到達目標				
疾患を有する方に対して検査測定ができるようにする。 また、問題点を抽出し統合と解釈までをレジュメ作成から学ぶ。				
回	テ ー マ	内 容		
1	症例準備①	講義		
2	症例準備②	講義、スライド		
3	症例準備③	講義、スライド		
4	症例評価①	外部実習		
5	症例評価②	外部実習		
6	レジュメ作成①	講義、スライド		
7	レジュメ作成②	講義、スライド		
8	まとめ	講義、スライド		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
なし		演習評価 課題評価	50.0% 50.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動療法Ⅰ		理学療法科／2年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	杉本 和彦（実務経験有）
授 業 の 概 要				
人間の症状など障害に対し、医学ならびに運動治療学などの基礎理論を背景にした運動そのものを用いた方法を学ぶ。				
〔実務経験〕 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
運動療法に必要な知識と技術を習得し、臨床で実施する基本的な運動療法手技について学習する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	運動療法の概念①	講義		
2	運動療法の概念②	講義		
3	運動療法の基礎	講義		
4	運動療法の基礎	講義		
5	〃	講義		
6	〃	講義		
7	〃	講義		
8	〃	講義		
9	〃	講義		
10	〃	講義		
11	〃	講義		
12	〃	講義		
13	〃	講義		
14	〃	講義		
15	〃	講義		
16	〃	講義		
17	組織の病態生理と修復	講義		
18	〃 ②	講義		
19	〃 ③	講義		
20	〃 ④	講義		
21	組織の病態生理と修復（神経系）①	講義		
22	〃 ②	講義		
23	〃 ③	講義		
24	〃 ④	講義		
25	運動の種類①	講義		
26	〃 ②	講義		
27	まとめ①	講義		
28	〃 ②	講義		
29	試験	試験		
30	解説	講義		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・吉尾雅春 編集『標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論』医学書院.		期末試験	100%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動療法Ⅱ		理学療法科／2年	2024／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	松本、兼八、川崎
授 業 の 概 要				
人間の症状など障害に対し、医学ならびに運動治療学などの基礎理論を背景にした運動そのものを用いた方法を学ぶ。また、疾患別、障害別の運動療法の基本的理解を深めていく。				
〔実務経験〕 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
本授業では、運動療法Ⅰ（基礎）の内容を再確認すると共に、疾患別、障害別の運動療法の基本的理解を深めていくことを目的とする。				
回	テ ー マ	内 容		
1	骨関節疾患の運動療法①	講義・演習		
2	骨関節疾患の運動療法②	講義・演習		
3	骨関節疾患の運動療法③	講義・演習		
4	骨関節疾患の運動療法④	講義・演習		
5	骨関節疾患の運動療法①	講義・演習		
6	骨関節疾患の運動療法②	講義・演習		
7	骨関節疾患の運動療法①	講義・演習		
8	骨関節疾患の運動療法②	講義・演習		
9	骨関節疾患の運動療法①	講義・演習		
10	骨関節疾患の運動療法②	講義・演習		
11	骨関節疾患の運動療法①	講義・演習		
12	骨関節疾患の運動療法②	講義・演習		
13	骨関節疾患の運動療法①	講義・演習		
14	骨関節疾患の運動療法②	講義・演習		
15	脳障害の運動療法①	講義・演習		
16	脳障害の運動療法②	講義・演習		
17	〃 ①	講義・演習		
18	〃 ②	講義・演習		
19	脳障害の運動療法①	講義・演習		
20	脳障害の運動療法②	講義・演習		
21	脳障害の運動療法①	講義・演習		
22	脳障害の運動療法②	講義・演習		
23	脳障害の運動療法①	講義・演習		
24	脳障害の運動療法②	講義・演習		
25	脳障害の運動療法①	講義・演習		
26	脳障害の運動療法②	講義・演習		
27	脊髄損傷の運動療法①	講義・演習		
28	脊髄損傷の運動療法②	講義・演習		
29	試験	試験		
30	解説	解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・吉尾雅春 編集『標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論』医学書院。		期末試験	100%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
物理療法		理学療法科／1年	2024／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	松本 昇（実務経験有）
授業の概要				
適切な物理療法が行えるよう各療法について、機器などの物理的特性、生体に及ぼす生理学的作用、効果と適応、手技、リスク管理などを中心に教授する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
適切な物理療法が行えるよう各療法について、機器などの物理的特性、生体に及ぼす生理学的作用、効果と適応、手技、リスク管理などを修得する。				
回	テーマ	内 容		
1	物理療法総論（定義・目的・歴史）	講義		
2	牽引療法（頸椎）	講義		
3	〃（腰椎）、CPM	講義		
4	牽引療法実習	演習		
5	水治療法	講義		
6	〃	講義		
7	寒冷療法	講義		
8	〃	講義		
9	寒冷による痙性抑制メカニズム	講義		
10	寒冷療法実習	演習		
11	光線療法（紫外線、赤外線）	講義		
12	〃	講義		
13	光線療法実習	演習		
14	電気療法①	講義		
15	〃	講義		
16	電気診断	講義		
17	バイオフィードバックと運動学習	講義		
18	電気療法実習	演習		
19	マッサージ療法	講義		
20	マッサージ療法実習	演習		
21	スポーツマッサージ	講義・演習		
22	温熱療法①	講義		
23	温熱療法②	講義		
24	温熱療法実習①	演習		
25	温熱療法実習②	演習		
26	物理療法におけるリスク管理	講義		
27	疾患別物理療法プログラムの実際	講義		
28	総まとめ①	講義・演習		
29	総まとめ②	講義・演習		
30	試験・解説	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 網本和 編著『標準理学療法学 専門分野 物理療法』医学書院. ・ 嶋田智明・高見正利 他編『物理療法マニュアル』医歯薬出版.		期末試験	100%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
装具学		理学療法科／2年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	今井 歩（実務経験有）
授 業 の 概 要				
装具に関する基本的事項を学習し、各種装具の特性と構造を紹介する。				
〔実務経験〕 義肢製作所勤務				
授業終了時の到達目標				
本講義では、適合、装着、操作指導の技術を習得することを目的とする。加えて臨床での装具選択のポイント、装具の構造と機能について学習する				
回	テ ー マ	内 容		
1	ガイダンス・装具療法総論	講義、スライド		
2	下肢装具1	講義、スライド		
3	下肢装具2	講義、スライド		
4	下肢装具3	講義、スライド		
5	下肢装具4	講義、スライド		
6	上肢装具1	講義、スライド		
7	上肢装具2	講義、スライド		
8	上肢装具3	講義、スライド		
9	上肢装具4	講義、スライド		
10	体幹装具1	講義、スライド		
11	体幹装具2	講義、スライド		
12	体幹装具3	講義、スライド		
13	体幹装具4	講義、スライド		
14	まとめ	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
加倉井周一 編『装具学』医歯薬出版. 加倉井周一・初山泰弘・渡辺英夫 編『装具治療マニュアル』医歯薬出版.		期末試験	100.0%	期末試験にて評価します

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
義肢学		理学療法科／2年	2024／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	今井 歩（実務経験有）
授 業 の 概 要				
義肢に関する基本的事項を学習し、各種義肢の特性と構造を紹介する。				
〔実務経験〕 義肢製作所勤務				
授業終了時の到達目標				
本講義では切断と義肢について基礎理論から適合技術、日常生活の指導に至るまで教授する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	切断と義肢の歴史	講義、スライド		
2	切断術	講義、スライド		
3	大腿義足①ソケット	講義、スライド		
4	大腿義足②膝継手、足継手	講義、スライド		
5	大腿義足③チェックアウト	講義、スライド		
6	大腿義足④チェックアウト	講義、スライド		
7	下腿義足①ソケット	講義、スライド		
8	下腿義足②足継手	講義、スライド		
9	下腿義足③チェックアウト	講義、スライド		
10	下腿義足④チェックアウト	講義、スライド		
11	股義足①ソケット	講義、スライド		
12	股義足②チェックアウト	講義、スライド		
13	サイム～足部義足	講義、スライド		
14	術直後義肢装着法	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
澤村誠志 編『義肢学』医歯薬出版. 細田多穂 編著『下肢切断の理学療法』医歯薬出版. 購入教材：理学療法学テキストⅥ 義肢装具学 第2版		期末試験	100.0%	期末試験にて評価する。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
日常生活活動Ⅰ		理学療法科／1年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	小西 大海（実務経験有）
授業の概要				
ADLとはなにか？ADL評価とはなにか？概論的内容から評価の実際、福祉用具から住宅改修まで環境設定の重要性を講義していきます。また車いすや歩行器、杖などの歩行補助具について使い方等実技を交えて講義していきます。 [実務経験] 施設勤務				
授業終了時の到達目標				
日常生活動作（ADL）は、人間の生存するための最も基本的な活動（動作）である。この概念や内容を理解し、さらに障害を評価分析・解決方法を学び、障害を持った方の個性ある豊かな生活に向けた援助方法の基礎的な学習を行う。				
回	テーマ	内 容		
1	ADLの概念と範囲	座学		
2	ADLとQOL	座学		
3	ADLを支援する機器：	座学		
4	ADLを支援する機器：	実技		
5	ADLを支援する機器：	座学		
6	ADLを支援する機器：	実技		
7	問診について	座学、実技		
8	ICFについて	座学、実技		
9	ADL評価について：	座学		
10	FIM, BIについて	座学		
11	基本動作について：	座学、実技		
12	基本動作について：	座学、実技		
13	基本動作について：	座学、実技		
14	基本動作について：	座学、実技		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
細田多穂 監修『日常生活活動学テキスト』南江堂。 石井慎一郎 編著『動作分析 臨床活用講座』メジカルビュー社。 千住秀明 監修『理学療法学テキストⅤ日常生活活動（ADL）第2版』神陵文庫。 鶴見隆正 編集『標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第2版』医学書院。		期末試験	100%	座学と実技で授業を行う 筆記試験にて評価を行う

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
日常生活活動Ⅱ		理学療法科／1年	2023／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	小西 大海（実務経験有）
授業の概要				
日常生活活動について各疾患と生活動作を考え、在宅生活に必要なことを応用的に学んでいく。				
〔実務経験〕 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
日常生活動作（ＡＤＬ）の実際として、代表的な疾患のＡＤＬ指導について学ぶ。また、その評価と訓練の実際についても知識を深める。				
回	テーマ	内 容		
1	ＡＤＬの実際：脳血管障害の病態	座学		
2	ＡＤＬの実際：脳血管障害の病態	座学		
3	ＡＤＬの実際：脳血管障害に対する評価	座学、実技		
4	ＡＤＬの実際：脳血管障害患者のＡＤＬ	座学、実技		
5	ＡＤＬの実際：脊髄損傷の病態	座学		
6	ＡＤＬの実際：脊髄損傷に対する評価	座学・実技		
7	ＡＤＬの実際：脊髄損傷者のＡＤＬ	座学・実技		
8	ＡＤＬの実際：関節リウマチの病態	座学		
9	ＡＤＬの実際：関節リウマチに対する評価 関節リウマチ患者のＡＤＬ	座学・実技		
10	ＡＤＬの実際：神経筋疾患の病態	座学		
11	ＡＤＬの実際：神経筋疾患の病態	座学		
12	ＡＤＬの実際：神経筋疾患に対する評価	座学・実技		
13	ＡＤＬの実際：神経筋疾患患者のＡＤＬ	座学・実技		
14	ＡＤＬの実際：その他のＡＤＬ 高齢者	座学・実技		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
細田多穂 監修『日常生活活動学テキスト』南江堂。 野村嶺 編集『標準理学療法学・作業療法学 解剖学』医学書院。 上田森生 編集『病気が見える 脳・神経』メディックメディア。 千住秀明 監修『理学療法学テキストⅤ日常生活活動（ADL） 第2版』神陵文庫。 鶴見隆正 編集『標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第2版』医学書院。		期末試験	100%	期末試験にて評価を行う

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学Ⅰ		理学療法科／2年	2024／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	杉本 はるか（実務経験有）
授業の概要				
各疾患を理解した上で治療に対する考え方、リスク管理について学んでいく。 【実務経験】施設勤務				
授業終了時の到達目標				
本授業は、整形外科を中心とした疾患の理学療法について学習する。実際の臨床において必要とされる評価、理学療法アプローチ、リスク管理について学習し、実践できることを目指す。				
回	テーマ	内 容		
1	骨折①	講義、演習、実技		
2	骨折②	講義、演習、実技		
3	高齢者の骨折①	講義、演習、実技		
4	高齢者の骨折②	講義、演習、実技		
5	腰痛症・腰椎椎間板ヘルニア①	講義、演習、実技		
6	腰痛症・腰椎椎間板ヘルニア②	講義、演習、実技		
7	側弯症	講義、演習、実技		
8	変形性股関節症（THA術後療法）①	講義、演習、実技		
9	変形性股関節症（THA術後療法）②	講義、演習、実技		
10	変形性股関節症（THA術後療法）③	講義、演習、実技		
11	変形性膝関節症（TKA術後療法）①	講義、演習、実技		
12	末梢神経損傷（顔面神経麻痺）①	講義、演習、実技		
13	末梢神経損傷（顔面神経麻痺）②	講義、演習、実技		
14	末梢循環障害①	講義、演習、実技		
15	末梢循環障害②	講義、演習、実技		
16	頸肩腕症候群（肩関節周囲炎を含む）①	講義、演習、実技		
17	頸肩腕症候群（肩関節周囲炎を含む）②	講義、演習、実技		
18	スポーツ外傷、ACL 半月板損傷①	講義、演習、実技		
19	スポーツ外傷、ACL 半月板損傷②	講義、演習、実技		
20	関節リウマチ①	講義、演習、実技		
21	関節リウマチ②	講義、演習、実技		
22	胸郭出口症候群・乳がん（手術後）①	講義、演習、実技		
23	胸郭出口症候群・乳がん（手術後）②	講義、演習、実技		
24	頸椎・腰椎術後療法①	講義、演習、実技		
25	頸椎・腰椎術後療法②	講義、演習、実技		
26	熱傷	講義、演習、実技		
27	切断と義肢①	講義、演習、実技		
28	切断と義肢②	講義、演習、実技		
29	試験	試験		
30	解説	解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
細田多穂・柳澤健 編集『理学療法ハンドブック（改訂第3版）』協同医書出版社.		期末試験	100.0%	筆記試験によって判断

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学Ⅱ		理学療法科／2年	2024／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	竹村 繭美（実務経験有）
授業の概要				
本授業では、脳血管障害を中心とした中枢神経疾患の理学療法について学ぶ。 【実務経験】 病院・学校勤務				
授業終了時の到達目標				
1) 脳血管障害・パーキンソン病の臨床像（病態・画像診断・治療を含む）を説明することができる。 2) 脳血管障害・パーキンソン病に対する理学療法評価を行うことができる。 3) 脳血管障害・パーキンソン病患者の基本動作の分析と誘導を行うことができる。 4) 脳血管障害・パーキンソン病の各病期に応じた基本的理学療法を実施することができる。				
回	テーマ	内 容		
1	脳血管障害概論1	講義、実技、演習		
2	脳血管障害概論2	講義、実技、演習		
3	脳血管障害概論3	講義、実技、演習		
4	脳血管障害の臨床像	講義、実技、演習		
5	脳血管障害に対する評価概論1	講義、実技、演習		
6	脳血管障害に対する評価概論2	講義、実技、演習		
7	脳血管障害：臥位レベルの評価と治療1	講義、実技、演習		
8	脳血管障害：臥位レベルの評価と治療2	講義、実技、演習		
9	脳血管障害：臥位レベルの評価と治療3	講義、実技、演習		
10	脳血管障害：臥位レベルの評価と治療4	講義、実技、演習		
11	脳血管障害：座位レベルの評価と治療1	講義、実技、演習		
12	脳血管障害：座位レベルの評価と治療2	講義、実技、演習		
13	脳血管障害：座位レベルの評価と治療3	講義、実技、演習		
14	脳血管障害：座位レベルの評価と治療4	講義、実技、演習		
15	脳血管障害：立位レベルの評価と治療1	講義、実技、演習		
16	脳血管障害：立位レベルの評価と治療2	講義、実技、演習		
17	脳血管障害：歩行の評価と治療1	講義、実技、演習		
18	脳血管障害：歩行の評価と治療2	講義、実技、演習		
19	下肢装具の復習と歩行分析1	講義、実技、演習		
20	下肢装具の復習と歩行分析2	講義、実技、演習		
21	下肢装具の復習と歩行分析3	講義、実技、演習		
22	肩の問題と摂食嚥下の問題について	講義、実技、演習		
23	高次脳機能障害に対するアプローチ1	講義、実技、演習		
24	高次脳機能障害に対するアプローチ2	講義、実技、演習		
25	高次脳機能障害に対するアプローチ3	講義、実技、演習		
26	脳卒中ガイドラインについて	講義、実技、演習		
27	パーキンソン病の病態・臨床像概論1	講義、実技、演習		
28	パーキンソン病の病態・臨床像概論2	講義、実技、演習		
29	パーキンソン病に対する理学療法1	講義、実技、演習		
30	パーキンソン病に対する理学療法2	講義、実技、演習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「リハ実践テクニック 脳卒中」 「神経筋障害理学療法テキスト」 病気がみえる「脳・神経」		期末試験	100.0%	筆記試験によって判断。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学Ⅲ		理学療法科／2年	2024／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	川崎 明浩（実務経験有）
授 業 の 概 要				
脊髄損傷患者の臨床症状や障害の状態を学び、頸髄損傷による四肢麻痺患者、胸腰髄損傷によつて麻痺患者に対する評価、理学療法を学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1) 脊髄障害による各種の臨床症状や障害の状態を理解する。 2) 四肢麻痺患者に対する急性期・回復期の理学療法の意義と目的、基本的な理学療法の方法を理解する。 3) 対麻痺患者に対する急性期・回復期の理学療法の目的と介入方法について理解する。 4) 脊髄損傷が社会参加するための生活環境整備の工夫を知り、生活機能向上のための理学療法を理解				
回	テ ー マ	内 容		
1	脊髄損傷の病態 1	講義、演習		
2	脊髄損傷の病態 2	講義、演習		
3	頸髄損傷（四肢麻痺）の評価 1	講義、演習		
4	頸髄損傷（四肢麻痺）の評価 2	講義、演習		
5	頸髄損傷（四肢麻痺）の治療 1	講義、演習		
6	頸髄損傷（四肢麻痺）の治療 2	講義、演習		
7	頸髄損傷（四肢麻痺）の治療 3	講義、演習		
8	胸腰髄損傷（対麻痺）の評価 1	講義、演習		
9	胸腰髄損傷（対麻痺）の評価 2	講義、演習		
10	胸腰髄損傷（対麻痺）の治療 1	講義、演習		
11	胸腰髄損傷（対麻痺）の治療 2	講義、演習		
12	胸腰髄損傷（対麻痺）の治療 3	講義、演習		
13	頸椎症性脊髄症の評価と治療	講義、演習		
14	OPLLの評価と治療	講義、演習		
15	期末試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
細田多穂 監修 シンプル理学療法学シリーズ神経筋障害理学療法学テキスト		期末試験	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学Ⅳ		理学療法科／2年	2024／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	森下正恵、小西大海 （実教経験有）
授業の概要				
罹患率が高い内部障害疾患に関して、成因、症状の理解を基に理学療法的治療アプローチを講義、実技を元に学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
循環器および呼吸器、代謝系疾患の理学療法が行えるようになるため、必要な知識を身につけることを目的とする。具体的には、生活習慣病患者の増加とともに急増している狭心症や心筋梗塞を始めとする循環器系疾患や呼吸器疾患、糖尿病などの代謝系疾患の理学療法について学ぶ。これらの疾患は、理学療法中に生命にかかわる場合もあり、正しい知識の習得が重要である。そのため、病態の理解、測定・検査法と評価法、目標設定と理学療法の治療計画、リスク管理、治療効果など、理学療法の基本原則と理学療法の流れを身につける。更に、患者が速やかに社会復帰できるような治療支援の方法について学習する。				
回	テーマ	内 容	担当教員	
1	オリエンテーション	講義、演習、実技	森下	
2	循環器疾患①	講義、演習、実技	小西	
3	循環器疾患②	講義、演習、実技	小西	
4	循環器疾患③	講義、演習、実技	小西	
5	循環器疾患④	講義、演習、実技	小西	
6	循環器疾患⑤	講義、演習、実技	小西	
7	循環器疾患⑥	講義、演習、実技	小西	
8	呼吸器疾患①	講義、演習、実技	小西	
9	呼吸器疾患②	講義、演習、実技	小西	
10	呼吸器疾患③	講義、演習、実技	小西	
11	呼吸器疾患④	講義、演習、実技	小西	
12	呼吸器疾患⑤	講義、演習、実技	小西	
13	呼吸器疾患⑥	講義、演習、実技	小西	
14	消化器疾患①	講義、演習、実技	森下	
15	消化器疾患②	講義、演習、実技	森下	
16	消化器疾患③	講義、演習、実技	森下	
17	消化器疾患④	講義、演習、実技	森下	
18	消化器疾患⑤	講義、演習、実技	森下	
19	肝・胆疾患①	講義、演習、実技	森下	
20	肝・胆疾患②	講義、演習、実技	森下	
21	肝・胆疾患③	講義、演習、実技	森下	
22	肝・胆疾患④	講義、演習、実技	森下	
23	泌尿器疾患①	講義、演習、実技	森下	
24	泌尿器疾患②	講義、演習、実技	森下	
25	泌尿器疾患③	講義、演習、実技	森下	
26	生殖器疾患①	講義、演習、実技	森下	
27	生殖器疾患②	講義、演習、実技	森下	
28	生殖器疾患③	講義、演習、実技	森下	
29	総まとめ	講義、演習、実技	森下	
30	試験	筆記試験	小西	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・『標準理学療法学・作業療法学 専門分野 内部障害理学療法学』医学書院 ・病気がみえる 1 消化器 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 2 循環器 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 3 糖尿病・代謝・内分泌 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 4 呼吸器 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 8 腎・泌尿器 MEDIC MEDIA		確認テスト 期末試験	50% 50%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学Ⅴ		理学療法科／2年	2024／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	西潟 央（実務経験有）
授業の概要				
代表的な神経筋疾患について成因、症状の理解を基に理学療法的治療アプローチを講義、実技を元に学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1) 小脳性運動失調に対する理学療法の基本的な考え方と実際について理解する。 2) 神経難病の特性をふまえたうえで、それぞれの病態を理解する。 3) 神経難病の進行状況を把握するための病態評価方法や理学療法のあり方を理解する。				
回	テーマ	内 容		
1	運動失調（症）の定義と分類	講義、演習		
2	小脳性運動失調症の病態と症状	講義、演習		
3	小脳変性疾患の特徴	講義、演習		
4	小脳性運動失調の評価	講義、演習		
5	小脳性運動失調の理学療法 1	講義、演習		
6	小脳性運動失調の理学療法 2	講義、演習		
7	多発性硬化症の病態と症状	講義、演習		
8	多発性硬化症の評価	講義、演習		
9	多発性硬化症に対する理学療法	講義、演習		
10	ALSの病態と症状	講義、演習		
11	ALSの評価	講義、演習		
12	ALSに対する理学療法	講義、演習		
13	多発性筋炎について	講義、演習		
14	重症筋無力症について	講義、演習		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病気がみえる「脳・神経」 細田多穂 監修 シンプル理学療法学シリーズ神経筋障害理学療法学テキスト		期末試験	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学Ⅵ		理学療法科／2年	2024／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	杉本 和彦（実務経験有）
授業の概要				
・脳性麻痺、筋ジス、二分脊椎、発達障害などの病態、症状を学ぶ。 ・脳性麻痺、筋ジス、二分脊椎、発達障害などの評価と理学療法について学ぶ。 【実務経験】病院・学校				
授業終了時の到達目標				
1) 脳性麻痺の病態・臨床像を理解する 2) 脳性麻痺児・者に対する理学療法の評価と治療の概略を理解する 3) 筋ジス・二分脊椎・発達障害の臨床像と理学療法について理解する 4) 正常発達、小児理学療法に関する知識を復習し、国家試験レベルの課題は8割以上理解することができる				
回	テーマ	内 容		
1	脳性麻痺に対する評価概論	講義、演習		
2	脳性麻痺に対する評価	講義、演習		
3	脳性麻痺に対する評価	講義、演習		
4	脳性麻痺に対する評価	講義、演習		
5	脳性麻痺に対する治療の考え方	講義、演習		
6	脳性麻痺に対する治療の考え方	講義、演習		
7	脳性麻痺に対する治療の考え方	講義、演習		
8	脳性麻痺に対する治療の考え方	講義、演習		
9	重症心身障害児・者に対する理学療法について1	講義、演習		
10	重症心身障害児・者に対する理学療法について2	講義、演習		
11	筋ジストロフィーの理学療法について1	講義、演習		
12	筋ジストロフィーの理学療法について2	講義、演習		
13	二分脊椎の理学療法について	講義、演習		
14	小児の整形疾患について	講義、演習		
15	発達障害について	講義、演習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
河村 光俊 著『小児の理学療法』医歯薬出版. 今川忠男『脳性麻痺児の24時間姿勢ケア』三輪書店.		期末試験	100.0%	筆記試験によって判断。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
スポーツ理学療法学		理学療法科／1年	2023／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	杉本 はるか（実務経験有）
授 業 の 概 要				
スポーツ疾患について理学療法士としての視点とスポーツ現場からの視点について考えていく。座学だけでなく、実技も行っていく。				
〔実務経験〕 施設勤務				
授業終了時の到達目標				
スポーツ理学療法としての考え方、疾病の見かた、スポーツ現場での理学療法士の役割などを座学、実技を通して学んでいく。				
回	テ ー マ	内 容		
1	スポーツ理学療法とは	講義		
2	スポーツ障害 各論①・・・上肢疾患	講義		
3	スポーツ障害 各論②・・・上肢疾患	講義		
4	スポーツ障害 各論③・・・下肢疾患	講義		
5	スポーツ障害 各論④・・・下肢疾患	講義		
6	スポーツ障害 各論⑤・・・体幹疾患	講義		
7	スポーツ障害 各論⑥・・・体幹疾患	講義		
8	リハビリについて	講義、実技		
9	体力測定について	講義、実技		
10	筋力トレーニングについて	講義、実技		
11	ストレッチについて①	講義、実技		
12	ストレッチについて②	実技		
13	テーピングについて①	講義、実技		
14	テーピングについて②	実技		
15	定期試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	筆記試験を行います

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
福祉住環境論		理学療法科／2年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	小西 大海（実務経験有）
授 業 の 概 要				
福祉住環境コーディネーター3級合格を目指し、在宅医療に必要な住環境整備や福祉用具について学んでいく。 【実務経験】施設勤務				
授業終了時の到達目標				
地域リハビリテーションの概念を学び、基礎的なシステムや展開論を幅広く学習する。地域理学療法と病院・施設などにおける理学療法との違いを理解する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	福祉住環境コーディネーターとは？	講義、スライド		
2	暮らしやすい生活環境を目指して	講義、スライド		
3	第1章 過去問	講義、スライド		
4	健康と自立をめざして	講義、スライド		
5	第2章過去問	講義、スライド		
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン	講義、スライド		
7	第3章過去問	講義、スライド		
8	安心・安全・快適な住まい	講義、スライド		
9	第4章過去問	講義、スライド		
10	安心できる住生活とまちづくり	講義、スライド		
11	第5章過去問	講義、スライド		
12	過去問①	講義、スライド		
13	復習	講義、スライド		
14	過去問②	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
奈良勲 監修『標準理学療法学 地域理学療法学』医学書院。 奈良勲 監修『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』医学書院 福祉住環境コーディネーター 検定試験 3級 公式テキスト		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
医療的ケア		理学療法科／3年	2024／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1 単位（30時間）	必須	山本 美佳代（実務経験有）
授 業 の 概 要				
保健医療福祉とリハビリテーションの観点から、疾患別、障害別理学療法の適用に関する知識と技術（喀痰等の吸引を含む）を修得し、対象者の自立生活を支援するために必要な課題解決能力を培う。				
[実務経験] 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
安全に医療的ケアを実施するために、必要な基本的知識を身につけことができる。 「喀痰吸引」「経管栄養」の実施手順に従って、それぞれの技術を実施できる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 1 呼吸の仕組みと働き	講義・演習		
2	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 2 喀痰吸引とは	講義・演習		
3	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 3 人工呼吸器と吸引	講義・演習		
4	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 4 子どもの吸引について	講義・演習		
5	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順 1 用いる器具・器材、技術と留意点	講義・演習		
6	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順 2 喀痰吸引に伴うケア	講義・演習		
7	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 1 消化器系のしくみとはたらき	講義・演習		
8	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 2 経管栄養とは	講義・演習		
9	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 3 実施するうえでの注意点、緊急時の対応	講義・演習		
10	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 4 実施するうえでの注意点	講義・演習		
11	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 5 子どもの経管栄養	講義・演習		
12	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順 1 用いる器具と器材、技術と留意点	講義・演習		
13	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順 4 経管栄養に必要なケア	講義・演習		
14	総まとめ	講義・演習		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・テキスト：『介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト』中央法規出版 *参考文献については、その都度提示する。		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
地域理学療法論Ⅰ		理学療法科／１年	2023／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	小林 裕和（実務経験有）
授 業 の 概 要				
高齢者の身体的特徴と在宅生活について学んでいく				
〔実務経験〕施設勤務				
授業終了時の到達目標				
地域福祉論で学んだ知識をいかし、地域社会（在宅）における理学療法の進め方を学習する。地域理学療法と病院・施設などにおける理学療法との違いを理解する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	地域理学療法とは	講義、スライド		
2	地域における理学療法士の役割	講義、スライド		
3	介護保険と医療保険①	講義、スライド		
4	介護保険と医療保険②	講義、スライド		
5	入所サービスについて	講義、スライド		
6	通所サービスについて	講義、スライド		
7	訪問リハビリについて	講義、スライド		
8	予防リハビリについて	講義、スライド		
9	成人障がい者施設での取り組み	講義、スライド		
10	小児施設での取り組み	講義、スライド		
11	住宅改修について	講義、スライド		
12	福祉用具について	講義、スライド		
13	シーティング（ポジショニング）①	講義、スライド		
14	シーティング（ポジショニング）②	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
鶴見隆正・大淵修一 責任編集 『健康増進と介護予防』三輪書店 奈良勲 監修『標準理学療法学 地域理学療法学』医学書院 奈良勲 監修『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』医学書院		期末試験	100.0%	筆記試験

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
地域理学療法論Ⅱ		理学療法科／2年	2024／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	森下 正憲（実務経験有）
授 業 の 概 要				
地域理学療法Ⅰで学んだことを活かし、より地域理学療法を学びます。また、各疾患において地域理学療法として正しい知識や技術を選択できるようにします。				
〔実務経験〕施設勤務				
授業終了時の到達目標				
地域福祉論で学んだ知識をいかし、地域社会（在宅）における理学療法の進め方を学習する。地域理学療法と病院・施設などにおける理学療法との違いを理解する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	高齢者とは	講義、スライド		
2	健康状態の評価	講義、スライド		
3	体力増進とリスク管理	講義、スライド		
4	脳血管障害	講義、スライド		
5	骨折	講義、スライド		
6	慢性呼吸不全	講義、スライド		
7	神経変性疾患	講義、スライド		
8	脊髄損傷	講義、スライド		
9	成人脳性麻痺	講義、スライド		
10	認知症	講義、スライド		
11	終末期における理学療法	講義、スライド		
12	小児理学療法	講義、スライド		
13	障がい者スポーツ①	講義、スライド		
14	障がい者スポーツ②	実技		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
鶴見隆正・大淵修一 責任編集 『健康増進と介護予防』三輪書店. 奈良勲 監修『標準理学療法学 地域理学療法学』医学書院 奈良勲 監修『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』医学書院.		期末試験	100.0%	筆記試験

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
地域理学療法論Ⅲ		理学療法科／3年	2025／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	森下 正憲（実務経験有）
授 業 の 概 要				
地域理学療法論Ⅱで学んだことを活かして、地域での理学療法士の役割を学びます。				
〔実務経験〕施設勤務				
授業終了時の到達目標				
地域福祉論で学んだ知識をいかし、地域社会（在宅）における理学療法の進め方を学習する。地域理学療法と病院・施設などにおける理学療法との違いを理解する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	地域における多職種連携	講義、スライド		
2	訪問リハビリでの理学療法士の役割①	講義、スライド		
3	訪問リハビリでの理学療法士の役割②	実技		
4	入所施設での理学療法士の役割①	講義、スライド		
5	入所施設での理学療法士の役割②	実技		
6	通所施設での理学療法士の役割①	講義、スライド		
7	通所施設での理学療法士の役割②	実技		
8	予防リハビリでの理学療法士の役割①	講義、スライド		
9	予防リハビリでの理学療法士の役割②	実技		
10	障がい者スポーツでの理学療法士の役割①	講義、スライド		
11	障がい者スポーツでの理学療法士の役割②	実技		
12	予防リハビリの実践①	実技		
13	予防リハビリの実践②	実技		
14	予防リハビリの実践③	実技		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
鶴見隆正・大淵修一 責任編集 『健康増進と介護予防』三輪書店 奈良勲 監修『標準理学療法学 地域理学療法学』医学書院 奈良勲 監修『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』医学書院		期末試験 実技試験	50% 50%	筆記試験と実技試験にて評価

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅰ		理学療法科／1年	2023／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
	1回	1単位（40時間）	必須	井崎義己（実務経験有）
授業の概要				
臨床実習として現場に赴き、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。 施設・診療所・病院等で実習を行う。 【実務経験】井崎義己（病院勤務）、竹村蘭美（病院勤務）、松本昇（病院勤務）、杉本はるか（病院勤務）				
臨床実習に赴き、臨床場面の実態を知り、臨床家としての心構えと基本的なスキルを身につける。				
授業計画				
1. 施設 実習施設：学生自身の希望を参考に科内協議した施設 実習期間：1回 2. 臨床実習 協力施設において、臨床実習指導者の指導・監督の下、臨床場面での理学療法士としての心構えと役割について理解を深める。また、解剖学、生理学、運動学、臨床医学等の知識を駆使し、対象者の障害像に迫る。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
必要な教材に関しては自分で準備をする。		実習目標の到達度 報告会等による評価		各臨床実習指導者の評価と学内成績のトータルで判断する。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅱ		理学療法科／2年	2024／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
	1回	4単位（180時間）	必須	松本昇（実務経験有）
授業の概要				
臨床実習Ⅰと同様に、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。また、理学療法の評価・治療までの一連の流れを経験できる。 施設・診療所・病院等で実習を行う。 【実務経験】松本昇（病院勤務）、兼八勇治（病院勤務）、川崎明浩（病院・施設勤務）、森下正憲（病院勤務）				
授業終了時の到達目標				
臨床実習に赴き、臨床実習Ⅰの成果を踏まえ、実際にクライアントに関わることにより、卒業後には臨床家として標準的な業務が行えるようになること。				
授業計画				
1. 施設 実習施設：学生自身の希望を参考に科内協議した施設 実習期間：1回 2. 臨床実習 ●臨床実習指導者の監督や助言の下で、対象者に合わせた評価項目を選択・実施し、統合と解釈を行い、問題点を抽出し、目標設定を行い、治療プログラム立案までの過程を経験する。 ●専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員が訪問した時には、実習指導者や学生から実習の進捗状況について確認する。また、事前に問題が発生した場合には、指導者から専任教員へ連絡をしてもらい、問題解決に向けたディスカッションの時間を設ける。 ●臨床現場での実習時間は8時間/日だが、1時間/日は対象者に関する振り返り時間とする。 ●実習前と実習後に実技評価を行い、学習効果を確認する。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
必要な教材に関しては自分で準備をする。		実習目標の到達度 実習前と実習後の実技評価 報告会等による評価		各臨床実習指導者の評価と学内成績のトータルで判断する。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅲ-①		理学療法科／3年	2024／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
	1回	8単位（360時間）	必須	松本昇（実務経験有）
授業の概要				
臨床実習Ⅱと同様に、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。また、理学療法の評価・治療までの一連の流れを経験できる。				
【実務経験】松本昇（病院勤務）、兼八勇治（病院勤務）、川崎明浩（病院勤務）、森下正憲（施設勤務）				
授業終了時の到達目標				
臨床実習指導者の指導・監督の下、理学療法評価からプログラム実施までの一連の理学療法プロセスを経験する。また、対象者の経過観察を行い、介入前後での比較を分析することができる。				
授業計画				
1. 施設 実習施設：学生自身の希望を参考に科内協議した施設 実習期間：1回 2. 臨床実習 ●臨床実習指導者の指導・監督の下、理学療法評価からプログラム実施までの一連の理学療法プロセスを経験する。また、対象者の経過観察を行い、介入前後での比較を分析することができる。 ●専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員が訪問した時には、実習指導者や学生から実習の進捗状況について確認する。また、事前に問題が発生した場合には、指導者から専任教員へ連絡をしてもらい、問題解決に向けたディスカッションの時間を設ける。 ●臨床現場での実習時間は8時間/日だが、1時間/日は対象者に関する振り返り時間とする。 ●実習前と実習後に実技評価を行い、学習効果を確認する。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
必要な教材に関しては自分で準備をする。		実習目標の到達度 実習前と実習後の実技評価 報告会等による評価		各臨床実習指導者の評価と学内成績のトータルで判断する。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅲ-②		理学療法科／3年	2025／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
	1回	8単位（360時間）	必須	松本昇（実務経験有）
授業の概要				
臨床実習Ⅱと同様に、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。また、理学療法の評価・治療までの一連の流れを経験できる。				
【実務経験】松本昇（病院勤務）、兼八勇治（病院勤務）、川崎明浩（病院勤務）、森下正憲（病院勤務）				
授業終了時の到達目標				
臨床実習指導者の指導・監督の下、理学療法評価からプログラム実施までの一連の理学療法プロセスを経験する。また、対象者の経過観察を行い、介入前後での比較を分析することができる。				
授業計画				
1. 施設 実習施設：学生自身の希望を参考に科内協議した施設 実習期間：1回 2. 臨床実習 ●臨床実習指導者の指導・監督の下、理学療法評価からプログラム実施までの一連の理学療法プロセスを経験する。また、対象者の経過観察を行い、介入前後での比較を分析することができる。 ●専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員が訪問した時には、実習指導者や学生から実習の進捗状況について確認する。また、事前に問題が発生した場合には、指導者から専任教員へ連絡をしてもらい、問題解決に向けたディスカッションの時間を設ける。 ●臨床現場での実習時間は8時間/日だが、1時間/日は対象者に関する振り返り時間とする。 ●実習前と実習後に実技評価を行い、学習効果を確認する。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
必要な教材に関しては自分で準備をする。		実習目標の到達度 実習前と実習後の実技評価 報告会等による評価		各臨床実習指導者の評価と学内成績のトータルで判断する。

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
地域理学療法実習		理学療法科／3年	2025／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
		1単位（40時間）	必須	松本昇（実務経験有）
授業の概要				
理学療法士の職域は病院・施設に留まらず、多岐にわたって活躍の場は広がっています。地域で暮らす高齢者や障害者を支援する理学療法士の在り方について、病院・施設への演習を通じて理解を深めます。 【実務経験】松本昇（病院勤務）、兼八勇治（病院勤務）、川崎明浩（病院勤務）、森下正憲（施設勤務）				
授業終了時の到達目標				
地域で働く理学療法士の役割を理解することができる。また、地域で生活する対象者の総合的な支援について説明することができる。				
授業計画				
1. 施設 実習施設：学生自身が選択した医療・介護等施設 実習時間：40時間 実習形態：医療・介護等施設から指定された日に当該施設の理学療法場面を見学しに行く。 また、必要な支援を行う。 2. 実習 学内オリエンテーション：安全管理、個人情報保護、事故・過誤の対応について取り上げる。 実習形態：協力医療施設において、これまでに修得した対人関係技法、基本的臨床技能などを駆使し、当該施設での理学療法士の役割を学び、対象者を包括的に支援する。 実習報告書：実習内容や当該施設の理学療法士としての役割について説明する。				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
特になし		レポート課題	100%	